

2022 年度

教 育 要 項

[M1]

順天堂大学医学部



# 目 次

はじめに	1
順天堂大学医学部コンピテンシー	2
順天堂の建学の理念	9
順天堂大学医学部の使命	10
医学教育のあり方について・教員の責務と学生の義務	16
病院等での実習の心得	17
[理念・医師の服装についてのマニュアル]	
個人情報保護に関する誓約書	20
個人情報利用に関する同意書	23
学外実習先に提出する履歴書書式	27
2022年度M1開講科目ナンバリング	28
医学部カリキュラムマップ(2022年度)	30
医学部カリキュラム概略図(2022年度)	31
M1授業の目的と内容について	33
履修に関する基本事項について	35
2022年度医学部1年開講科目	47
M1カリキュラム表	48
一般教育と医学への橋渡しイメージ図	49

## 【 1 年 】

2022年度医学部1年開講科目(授業概要はJUNTENDO PASSPORT掲載)

### (1) 必修科目(一般教養)

医療プロフェッショナルリズム入門  
 医療入門  
 行動科学 I  
 医学研究入門 I  
 Practical English for TOEFL I  
 Practical English for TOEFL II  
 TOEFL・IELTS演習  
 スポーツと健康  
 ライフサイエンスのための化学  
 人体物理学  
 細胞生物学  
 統計解析への数学  
 データサイエンス基礎

### (2) 選択必修科目(実習)

自然科学系総合実習  
 (化学) 定性分析  
 (化学) 生体物質の分離と定量の基礎  
 (物理) 物理学入門  
 (物理) ミクロの世界から  
 (生物) 顕微鏡観察  
 (生物) カエルの解剖  
 (数学) 情報処理 I  
 (数学) 情報処理 II

### (3) 選択必修科目(PBL)

PBL(水と生命)  
 PBL(健康を支える科学)  
 PBL(バイオマテリアルと医療)  
 PBL(法則と方程式)  
 PBL(プログラミングとアルゴリズム)  
 PBL(素粒子の $\alpha\beta\gamma$ )  
 PBL(医療の思想と倫理)  
 PBL(Medicine from a Global Perspective)  
 PBL(ことばの力, the power of words)  
 PBL(Listening Skills: Development and Assessment)  
 PBL(統計に基づいた科学的実証の実際)  
 PBL(医事ニュースを読み解く統計学)  
 PBL(生物の多様性)  
 PBL(錯覚錯視の原理と応用)  
 PBL(Can We Trust Diet Studies?)  
 PBL(身近な毒との微妙な関係)  
 PBL(Health Economics)  
 PBL(Diversity in culture, language use, and language learning)

### (4) 選択科目

#### ①自然科学系科目

Medical Biology in English  
 2変数の微分積分入門  
 相対論入門:時空とエネルギー  
 ヒューマンバイオロジー  
 分子の形

# 目 次

## ②語学系科目

Introduction to ECFMG  
Academic English for TOEFL I  
Academic English for TOEFL II  
Academic English for TOEFL III  
Academic English for TOEFL IV  
Academic English for TOEFL V  
Academic English for TOEFL VI  
Academic English for TOEFL VII  
TOEFL特別演習Ⅰ (ABC)  
TOEFL特別演習Ⅱ (CDE)  
TOEFL特別演習Ⅲ (ABC)  
TOEFL特別演習Ⅳ (CDE)  
ドイツ語Ⅰ  
ドイツ語Ⅱ  
フランス語Ⅰ  
フランス語Ⅱ  
中国語Ⅰ  
中国語Ⅱ  
日本語リテラシー  
日本語アカデミックライティング

## ③人文社会学系科目

コミュニケーション論  
生きる意志 (倫理学)  
医療社会学  
医療の経営学  
医療行為と法  
文化の中の健康  
メディカル・ヒューマニティーズ

## ④自由選択科目

新しい世界を拓いた人々  
知の統合  
医学研究入門Ⅱ  
科学研究のための基礎  
科学研究ゼミナール  
マリン実習

## (5) 必修科目 (基礎医学入門)

組織細胞生物学 ..... 50

○医の原則・医学と医療の倫理等に関する授業一覧 ..... 60

○2022年度における各学年の進級判定基準 ..... 63

# はじめに

医学部長 服部 信孝

近年の医学の進歩は目覚ましく、医学部の学生が修得しなくてはならない知識・技能は膨大なものとなっています。したがって、限られた授業時間のなかで十分な学習効果をあげるためには、皆さんの「学び」に対する active な姿勢が重要になってきます。医学部の6年間では、将来自分が医師や研究者として活躍するために必要な知識・技能・態度を勉強することになりますが、実は医学部卒業後も生涯を通じてこの「学び」に対する active な姿勢を保持し続けることが求められます。医学部教育において最も大切なことは、受動的に知識を取得するのではなく、自ら学び、考え、問題を解決する能力を育成することです。皆さんには自ら学習する習慣（passive なものから active なものへ）を培ってもらいたいと思います。授業は教員による一方向の講義ではなく、team-based learning（T B L）や質疑応答を多く取り入れた双方向のものが好ましいと考えています。

この教育要項はこのような理念に基づき、皆さんが自主学習しやすいようにと、担当の先生方が苦心して作成されたものです。教育要項には、どの日にどのようなテーマで講義や実習が行われるかが記載されています。あらかじめ一読し予備知識をもって、講義や実習に臨んで下さい。そうすることで、より一層理解することができ、医学に興味をもてるようになると思います。この教育要項を大いに活用し、積極的に知識や技術を学び取ってもらいたいと願っています。

## 順天堂大学医学部 コンピテンシー

### 1. 診療技能・患者ケア

- a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。
- b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。
- c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。
- d. 病状説明・患者教育に参加できる。

### 2. 医学的知識

- a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。
- b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。
- c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。
- d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。
- e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。
- f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。

### 3. 医療安全

- a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。
- b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。
- c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。
- d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。
- e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。
- f. 自己の健康管理ができる。

#### 4. チーム医療

- a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。
- b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。
- c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。

#### 5. コミュニケーション

- a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。
- b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。
- c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。

#### 6. 医療の社会性

- a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。
- b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。
- c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。

#### 7. 倫理とプロフェッショナリズム

- a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。
- b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。
- c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。
- d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。

## 8. 自律的学習能力

- a. 自分の目標に向けた学習ができる。
- b. 適切な情報収集ができ、活用できる。
- c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。
- d. 医学研究に対する興味を高めることができる。

## 9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任

- a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。
- b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。
- c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。
- d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。



順天堂大学医学部コンピテンシー達成レベルの説明

Millerの臨床能力評価ピラミッドのレベル	Advanced	Applied	Basic	Very Basic	記入 なし
	A (Does)	B (Shows how)	C (Knows how)	D (Knows)	
<b>順天堂大学医学部コンピテンシー</b>	解説	解説	解説	解説	
<b>1 診療技能・患者ケア</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 成人・小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。</li> <li>b 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。</li> <li>c 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる</li> <li>d 病状説明・患者教育に参加できる。</li> </ul>	自ら診療できる(任せられる)・監視下で診療できる・診察に参加・手伝いができる。	シミュレーターや模擬患者を使い、診療的に関係する内容(診察・診断・治療計画など)ができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>2 医学的知識</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。</li> <li>b 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。</li> <li>c 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。</li> <li>d 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。</li> <li>e 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。</li> <li>f 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。</li> </ul>	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
<b>3 医療安全</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 正確な医療知識・技術が医療安全につながる事が理解できる。</li> <li>b インフォームド・コンセントを理解し実践できる。</li> <li>c 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。</li> <li>d 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。</li> <li>e 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。</li> <li>f 自己の健康管理ができる。</li> </ul>	実践の場で修得した能力・知識を応用できる。	模擬的な状況に対して、必要な能力・知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>4 チーム医療</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 医療チームの一員として積極的に参加できる。</li> <li>b 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することが出来る。</li> <li>c 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。</li> </ul>	診療の一部として、患者や診療チームのメンバーと問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、患者や診療チームのメンバーとのコミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>5 コミュニケーション</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。</li> <li>b 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。</li> <li>c プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。</li> </ul>	診療の一部として患者や診療チームのメンバーと、あるいは一般社会や大学において問題なくコミュニケーションできる。	模擬的な状況で、コミュニケーション内容を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>6 医療の社会性</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。</li> <li>b 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。</li> <li>c 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。</li> </ul>	実践の場で問題解決に応用できる。	問題解決に応用できる知識を示すことができる。	知識を応用した内容を学習・理解することができる。	基礎となる知識を示せることができる。	該当なし
<b>7 倫理とプロフェッショナリズム</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。</li> <li>b 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。</li> <li>c 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。</li> <li>d 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。</li> </ul>	実際の診療の場で、要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	模擬診療的な状況で要求されている内容を示す、あるいは価値観を示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>8 自律的学習能力</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 自分の目標に向けた学習ができる。</li> <li>b 適切な情報収集ができ、活用できる。</li> <li>c 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。</li> <li>d 医学研究に対する興味を高めることができる。</li> </ul>	要求されている内容を実際の場で示すことができる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし
<b>9 順天堂大学医学部出身者としての誇りと責任</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>a 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。</li> <li>b 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。</li> <li>c 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。</li> <li>d 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE対策、交換留学などを含む)。</li> </ul>	要求されている内容を実際の場で示すことができる。実践できる。	要求されている内容を模擬的な場面で示すことができる。	知識を応用した学習ができる。	基礎となる知識の修得ができる。	該当なし

# 順天堂大学医学部コンピテンシー達成レベル表

学年	語学			医療入門				行動科学・社会医学				体験実習等							基礎医学						基礎研究	臨床医学									必修講義							
	M2	M3	M4	M1	M1	M1	M2	M1	M3	M4	M4	M2	M2	M2	M2	M3	M3	M3	M3	M1	M2	M2	M2	M2		M2	M3	M3	M3	M3	M3	M3	M3	M3		M4	M4	M4	M4	M4	M5	M5
カリキュラム R4年度版		コンピテンシー																																								
		<p>English English English            医療入門 医療プロフェッショナル入門 医学研究Ⅰ            行動科学 (含Zのナレッジ) 行動科学Ⅱ・社会医学 衛生・公衆実習 救急医学実習 基本手技 医療安全からみた医療者のプロフェッショナルリズム 医療体験実習 医療面接実習 医療面接実習 診察技法 基本手技 医療体験実習 組織細胞生物学            Unit 1 Zoonosis Zoonosis Zoonosis Zoonosis Zoonosis            基礎ゼミナール            Group 1 Group 2 Group 3 Group 4 Group 5 Group 6 Group 7 Group 8 Group 9            臨床実習前トレーニング            M4臨床実習(コア科実習) M5臨床実習(コア科実習) M5臨床実習(コア科実習) M6臨床実習(コア科実習) M6臨床実習(コア科実習) M6インターンシップ            M6必修講義</p>																																								
1 診療技能 患者ケア	a	成人・小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。																																								
	b	診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。																																								
	c	患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる																																								
	d	病状説明・患者教育に参加できる。																																								
2 医学的知識	a	各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。																																								
	b	各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。																																								
	c	発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。																																								
	d	臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。																																								
	e	基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。																																								
	f	最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。																																								
3 医療安全	a	正確な医療知識・技術が医療安全につながる事が理解できる。																																								
	b	インフォームド・コンセントを理解し実践できる。																																								
	c	個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。																																								
	d	感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。																																								
	e	問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。																																								
	f	自己の健康管理ができる。																																								



## 順天堂大学医学部コンピテンシー達成レベル表

分類	語学			医療入門			行動科学・社会医学				体験実習等						基礎医学						基礎研究	臨床医学						臨床実習						必修履修									
	学年	M2	M3	M4	M1	M1	M2	M1	M3	M4	M4	M2	M2	M2	M3	M3	M3	M3	M1	M2	M2	M2		M2	M2	M3	M3	M3	M3	M3	M3	M4	M4	M4	M4		M4	M4	M5	M5	M6	M6	M6		
カリキュラム R4年度版	English			医療入門			行動科学 (含2019年度)				衛生・公衆実習 救急医学実習 基本手技 医療安全からみた 医療者のプロフェッショナル 医療体験実習 医療面接実習 診察技法 基本手技 医療体験実習 組織細胞生物学						Zone A Zone B Zone C Zone D Zone F						基礎ゼミナール	臨床実習前トレーニング						M4臨床実習前トレーニング M5臨床実習(コア科実 習) M5臨床実習(コア科実 習) M6臨床エキスパート実 習 M6臨床エキスパート実 習 M6インターン シップ実習						M6必修履修									
	コンピテンシー			医療入門			行動科学				衛生・公衆実習 救急医学実習 基本手技 医療安全からみた 医療者のプロフェッショナル 医療体験実習 医療面接実習 診察技法 基本手技 医療体験実習 組織細胞生物学						Zone A Zone B Zone C Zone D Zone F						基礎ゼミナール	臨床実習前トレーニング						M4臨床実習前トレーニング M5臨床実習(コア科実 習) M5臨床実習(コア科実 習) M6臨床エキスパート実 習 M6臨床エキスパート実 習 M6インターン シップ実習						M6必修履修									
8 自律的学習能力	a 自分の目標に向けた学習ができる。	C	C	C	C	C			C	B	A		B	B	B	B	B	B	B	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	A	A	A	A	A	A	B				
	b 適切な情報収集ができ、活用できる。	C	C	B	C	C	C		C	B	A		B	B	B	B	B	B	B	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	A	A	A	A	A	A	B		
	c 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。	C	C	B	C	C			C	B	A		B	B	B	B	B	B	B	D	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	C	A	A	A	A	A	A	B	
	d 医学研究に対する興味を高めることができる。	C	C	B	C	C	C	C	C	B	A		B	B	B	B	B	B	B	D	D	D	D	D	D	D	D	B												A	A	A	A	A	A
9 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任	a 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。	B	B	B	A	A			C	B	A																																		
	b 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。								C	B	A																																		
	c 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。				C	C			C	B	A																																		
	d 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE対策、交換留学などを含む)。	A	B	A																								C																	

記入なし:修得の機会がない

# 順 天 堂 の 建 学 の 理 念

## 順天堂の建学の理念

「順天堂」の歴史は、天保9年（1838年）初代堂主佐藤泰然が江戸・薬研堀（両国橋の袂）に蘭方塾を開いた時に遡る。そして順天堂は医育機関を併設した西洋医学の医療機関として、日本で最も長い歴史と伝統を持つ。

天保14年（1843年）、佐倉に新たに塾を開くが、この幕末から明治初期に至る佐倉順天堂時代には、最新の西洋医学と医療技術の導入により患者に最善の医療を提供しようとする努力が払われた。これは、即ち、今でいう patient-oriented medicine の実践を信条とした医療であった。また、順天堂は全国から入門する百数十名をこえる塾生の教育に力を入れたが故に、【日新の医学、佐倉の林中より生ず】という言葉が生まれるに到った。爾来、順天堂は常に時流を見据えて【不断前進】の理念を持ち続け創造的な歩みを進めてきた。

たゆまぬ前進と改革を続ける一方で、不易に守り通してきた精神は、【天道に則り、自然の摂理に順う】ことで、これこそが、中国の古典・易経に表された【順天応人】、孟子の言藁に見られる【順天存者、逆天滅者】であり、本学の名称の由来となる精神となっている。

医学に携わる者は、常に天道に真摯に従い、人間世界の援護者であり続けなければならない、従って、開学以来、本学が重視してきた信条は、まさに【人間医師】の育成であり、順天の精神を根底に持つ人材の育成である。

また、現在における【学校法人順天堂】では医療と医学教育に併せて、スポーツ健康科学部を設け、少人数制による全人格的教育をもって、体育・スポーツ・健康の維持、そして、健康増進の相互連関を究明し、医学知識の豊かな保健体育指導者の養成、更に、医療看護学部では看護師と保健師、助産師の育成にも力を注いでいる。このように順天堂は国民の病を癒すことのみならず、高齢者を含めた全国民の健康維持と増進をその理念として歴史を刻んできた。

順天堂の校章は、「仁」の文字を意匠化したもので明治時代から順天堂医院の薬袋に使用されていたものである。「人ありて我あり、他を思いやり、慈しむ心」これ即ち「仁」。病める人々の立場に立つ心、学是であるこの「仁」を大切に育み、次世代を担う学生や若い研究者の涵養をしつつ近代医療を推進している。

## 順天堂大学医学部の使命

医学部は、人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点を持ちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的（＝使命）とする。そのために、以下の目標を定める。

1. 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術を身につける。
2. 不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につける。
3. 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養する。
4. チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣を身につける。
5. 国際社会に役立ち、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を培う。

## 1. アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

### 求める学生像

医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます

- 1.一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人
- 2.幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人
- 3.自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人
- 4.国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人
- 5.入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人

### 大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

- 1.理科:物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心
- 2.数学:数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについての十分な知識と論理的思考力
- 3.英語:国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 68 点程度/IELTS 6.0 程度、もしくは同等水準の英語能力
- 4.国語:十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
- 5.地理歴史・公民:世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
- 6.特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

### 入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけを目指すのではなく、国家試験をものともしない、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。



## 2. カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)

順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。

1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。

2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進めるPBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。

3. 3年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。

4. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属6病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることで、臨床能力を身に付ける教育を行います。

5. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6年次の臨床実習では、海外での実習機会(2~8週間、留学先は自ら選べる)を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。

学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。



### 3. ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)

医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士(医学)の学位を授与します。

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>I. 診療技能・患者ケア, 医学的知識</b></p> <p>科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。</p> <p><b>II. 医療安全</b></p> <p>医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。</p>	<p>1. 診療技能・患者ケア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 成人及び小児・高齢者の基本的な医療面接・身体診察と臨床手技を適切に実施できる。</li> <li>b. 診断・治療・全身管理に積極的に参加できる。</li> <li>c. 患者・家族の思いや苦しみを理解し最善の医療に参加できる。</li> <li>d. 病状説明・患者教育に参加できる。</li> </ul> <p>2. 医学的知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 各臓器の構造と機能を理解し、説明できる。</li> <li>b. 各臓器の異常に基づく病態や臨床症候について概説できる。</li> <li>c. 発達、成長、加齢に関する知識を有し、応用できる。</li> <li>d. 臨床推論により疾患を鑑別でき、診断に必要な検査と治療内容を計画できる。</li> <li>e. 基礎医学と臨床医学の知識を連携させて症状・疾患を理解できる。</li> <li>f. 最新のエビデンスに基づく医学・医療情報を理解・応用することができる。</li> </ul> <p>3. 医療安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 正確な医療知識・技術が医療安全につながることを理解できる。</li> <li>b. インフォームド・コンセントを理解し実践できる。</li> <li>c. 個人情報の扱いの重要性を理解し、適切に管理・運用できる。</li> <li>d. 感染予防対策の適切な方法・プロセスを理解し、実践できる。</li> <li>e. 問題を起こしやすい状況とその対応を理解し、情報共有ができる。</li> <li>f. 自己の健康管理ができる。</li> </ul>

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>Ⅲ. チーム医療, コミュニケーション</b></p> <p>チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。</p> <p>他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。</p> <p><b>Ⅳ. 医療の社会性</b></p> <p>行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。</p> <p><b>Ⅴ. 倫理とプロフェッショナリズム</b></p> <p>医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。</p>	<p>4. チーム医療</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 医療チームの一員として積極的に参加できる。</li> <li>b. 他職種の職務内容とチーム医療を理解し、必要な知識を有し、連携することができる。</li> <li>c. 患者の抱える問題を理解し、医療スタッフと情報交換できる。</li> </ul> <p>5. コミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 一般社会人として信頼関係が構築でき、情報共有ができる。</li> <li>b. 医師や他の医療職種、患者、家族と良好なコミュニケーションがとれる。</li> <li>c. プレゼンテーション能力や人を指導・教える能力を有し、応用できる。</li> </ul> <p>6. 医療の社会性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 行動科学、社会医学を理解し、医療制度を概説できる。</li> <li>b. 患者・国民のニーズを理解し、必要な医療と医療制度を概説できる。</li> <li>c. 地域医療のシステム、現状、問題点、プライマリ・ケアの役割を理解できる。</li> </ul> <p>7. 倫理とプロフェッショナリズム</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し行動できる。</li> <li>b. 倫理・法律に反しない行動ができ、利益相反について理解できる。</li> <li>c. 患者の立場と心理を理解し、双方にとっての最善の結果が得られる医療を提案できる。</li> <li>d. 社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる。</li> </ul>

ディプロマ・ポリシー	コンピテンシー
<p><b>VI. 自立的学習能力, 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</b></p> <p>順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心(学是「仁」)を持った行動ができる。</p> <p>グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。</p>	<p>8. 自立的学習能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 自分の目標に向けた学習ができる。</li> <li>b. 適切な情報収集ができ、活用できる。</li> <li>c. 後輩・同級生を指導することで自らも学ぶことができる。</li> <li>d. 医学研究に対する興味を高めることができる。</li> </ul> <p>9. 順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 順天堂大学で学んだ者として、思いやりを持った行動ができる(寮生活などの共同生活経験を含む)。</li> <li>b. 医の歴史を理解した上で、医学・医療の発展をめざすことができる。</li> <li>c. 健康に与える運動の影響を考慮した医療を提言できる。</li> <li>d. 国際的に活躍できる語学力、医療能力を身につける(TOEFL・IELTS・USMLE 対策、交換留学などを含む)。</li> </ul>

## 医学部での教育のあり方について・教員の責務と学生の義務

### 【ミッション】

- 1) 授業は、単に知識・技術の伝達ばかりではなく、教員と学生との直接的なコミュニケーションを通して、医師としての人間性を育成するための教育の場でもある。ベッドサイドでも、実習の場でも、教室においても当然そうである。
- 2) 教員には教育する責任があり、学生には履修義務がある。それがどうしてもよい、来なくてもよいというのでは、学習の場としての大学の存在意義を自己否定するものである。特に、医学部学生の不勉強は、患者に迷惑をかける。
- 3) 学生を教育することは、教員自らの研究・診療活動能力を向上させるうえで最も重要である。
- 4) 学生の学習意識を PASSIVE なものから ACTIVE なものに変化させるよう、教員側が全教科を通じて努力することと、その手法を工夫することが重要である。学生も自ら学ぶ意識を堅持し、積極的な姿勢で勉学に臨むことは必須である。
- 5) 学生のモチベーションの向上を図り、それに基づく教育体制を整備することは、本学全体の教育のみならず研究や臨床における活動水準を高めることに繋がる。
- 6) 授業時間中に前回または当日の授業内容の理解度を問う試験を行い、出席をとる。同時に学生の授業に対する意見を聞くことの徹底（教務課にて用意されている「授業評価票」使用の徹底）を図る。また、教育者としての自己評価・他者評価を重視する。
- 7) 学部教育や臨床教育（BSL）においては、教授・准教授・講師・助教が学生に対して直接教育するが、それのみに止まらず大学に集う者全てが教育に関与すべきである。病院などの現場においては、『屋根瓦方式』による教育の重要性を認識することが重要である。これは教員のみならず留まらない。学生も同級生・下級生に教えることによって知識の確認を行うべきである。

# 病院等での実習の心得

## 順天堂医院理念

順天堂の「天道に則り、自然の摂理に順う」精神で人々の生命を尊重し、人間としての尊厳および権利を守る。更に「不断前進」の精神で、創造的な改革を進め、医療人の育成および最善の医療の提供を目指す。

## 基本方針

1. 患者さん一人ひとりに、安全で根拠に基づく良質かつ高度な医療を提供する。
2. 患者さんと家族が満足できるサービスを提供する。
3. 患者さんが安心して快適な療養生活ができる環境を提供する。
4. 特定機能病院として、先進医療の開発・導入を行い、優れた医療技術を提供する。
5. 救急医療活動や在宅医療における役割を担う。更に災害時の拠点病院として地域医療に貢献する。
6. 省エネ、エコロジーを推進し、環境保全活動に努める。  
すべての医療従事者は、この実現のために取り組むものとする。

## 「患者さんの権利」

医療は患者さんと医療機関との十分な信頼関係で成り立っています。順天堂医院では、すべての患者さんに次の権利があると思料し、尊重した医療を行います。

1. 良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
2. 一人ひとりの人格や価値観などが尊重された医療を受ける権利があります。
3. ご自分の希望や意見を述べる権利があるとともに、希望しない医療を拒否する権利があります。
4. 理解しやすい言葉や方法で、納得できるまで十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
5. 十分な説明と情報提供を受けた上で、治療方法などを自らの意思で選択する権利があります。
6. 診療の過程で得られた個人情報を守られる権利があります。
7. 患者さんが主治医（かかりつけ医）から勧められた治療を選択するにあたり、納得して治療を受けられるよう、セカンドオピニオンにより、主治医（かかりつけ医）以外の医師に意見を求める権利があります。

## 「患者さんへのお願い」

順天堂医院では、さまざまな医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、適切な医療の提供にご協力くださいますようお願いいたします。

1. 誤認防止のため、患者さんに氏名（フルネーム）および生月日を確認しています。
2. 治療上必要なルールは、お守りください。また、治療について不安を感じましたら、どんなことでもすぐにお知らせください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるよう配慮に努めています。他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
4. 当院では、防犯および安全管理上の理由により、院内における任意の場所にビデオカメラを設置しています。なお、撮影された映像データは、防犯および安全管理上に問題がある場合に限り使用し、一定時間保管後破棄いたします。

## 順天堂医院：医師心得

順天堂医院の医師は診療・教育・研究に全力を尽すとともに以下の心得を堅く遵守されたい

1. 何より医療安全に留意すること（絶対に患者の心身を傷つけないこと）
2. 患者に、優しく、思いやりをもって、謙虚に！！ 接遇に最大の注意を払うこと！！（医療訴訟防止の原点）
3. 患者の秘密を守る（守秘義務・個人情報の保護）
4. コスト意識を持ち、無駄を省くこと
5. 順天堂医院に相応しい上品で清潔な服装と言動を（規定あり）
6. エレベーターは患者最優先、原則として私語禁止
7. 廊下は患者最優先！横に広がらず、どちらか片側を歩く
8. 原則として聴診器を首にかけて院内外を歩かない
9. 白衣にて院内外のレストランへの出入り禁止（職員食堂を除く）
10. 十分な説明とインフォームドコンセントの徹底

## 医師の服装、身だしなみについてのマニュアル

医療現場では医師の服装、行動は患者、家族から見られている。  
順天堂医院は災害拠点病院であり、緊急時への対応も念頭に置く必要がある。

- 1) ケーシー型白衣着用の際には、下に無地または薄い色の半袖のシャツを着用する。
- 2) 男性が上着型白衣を着用する際には、ネクタイを着用する。
- 3) 緊急時を除き、手術着・検査着を着用したまま当該部署以外に出てはならない。やむを得ない場合には手術着・検査着の上に白衣を着用する。
- 4) 薄手の黒色ストッキングは避ける。
- 5) 「おしゃれ」と「みだしなみ」は異なることを理解し、就業に相応しい頭髪、化粧を心がける。

## 医師・職員の服装、みだしなみについての心得

順天堂の歴史と伝統に恥じないように心掛けること。

- 1) 清潔で不快感を与えないこと。
- 2) 緊急時にも速やかに対処できるような動きやすい服装であること。
- 3) ネームプレートは必ずよく見える位置に着用すること。
- 4) 頭髪が肩にかかる場合には束ねたりまとめたりすること。
- 5) アクセサリーは控えること。
- 6) 化粧は清楚で品位のあるものとし、香りにも注意すること。
- 7) 白衣の前ボタンはきちんと留めること。
- 8) 白衣を着用したまま、院外施設（コンビニ、レストランなど）へ立ち入らないこと。
- 9) 白衣の下に着用する服装は機能面を重視するが、ジーンズ等の作業着は控えること。
- 10) 素足・派手な柄のストッキング・靴下は避けること。また踵の出るような短い靴下も控えること。
- 11) 靴も機能面に優れたものとする。ブーツ、サンダル（クロックスを含む）、ハイヒールまた派手な色のものは控えること。



順天堂大学  
医学部長 服部 信孝 殿

## 個人情報保護に関する誓約書

私は、順天堂大学医学部の学生として、順天堂大学学則における患者情報及び個人情報保護に関する諸規程を遵守します。

また、患者に関する情報および大学・病院関係者の個人情報を在学中はもちろん、卒業後も第三者に故意または過失によって漏洩したり、無断で使用したり、持ち出したりしないことを誓約いたします。

2022年 月 日

学 年： 1. 2. 3. 4. **5.** 6

学生番号： 21\*\*\*\*\*

署 名： 順天太郎

注1)この「誓約書」は、新学期オリエンテーション時に回収します。  
注2)内容をよく読み、記入例の様に、所定の欄(「学年」「学生番号」「氏名」)を記入すること。







順天堂大学

医学部長 服部 信孝 殿

## 個人情報利用に関する同意書

私の学業成績に関する情報を、医学教育の質の向上、教育研究の目的のため  
使用することに同意します。

2022年 月 日

学 年： 1. 2. 3. 4. 5. 6

学生番号： 21\*\*\*\*\*

署 名： 順 天 太 郎

注1)この「同意書」は、新学期オリエンテーション時に回収します。  
注2)内容をよく読み、記入例の様に、所定の欄(「学年」「学生番号」「氏名」)を記入すること。



(提出用)

順天堂大学

医学部長 服部 信孝 殿

## 個人情報利用に関する同意書

私の学業成績に関する情報を、医学教育の質の向上、教育研究の目的のため  
使用することに同意します。

2022年 月 日

学 年 : 1 . 2 . 3 . 4 . 5 . 6

学生番号 : \_\_\_\_\_

署 名 : \_\_\_\_\_



# 履歴書

年 月 日現在

ふりがな		印
氏 名		
生年月日	年 月 日生 (満 歳)	男・女
携帯電話番号	E-MAIL	

写 真  
(4cm×3cm)  
写真の裏面に  
氏名を記入

ふりがな	電話 ( )
現住所 〒 -	-
	FAX ( )
	-
ふりがな	電話 ( )
連絡先〒 (現住所以外に連絡を希望する場合のみ記入)	-
	FAX ( )
	-

年	月	学歴・職歴 (※学歴は高校入学から記入)

(自己紹介／志望の理由 等)

分類	ナンバリング	科目名
必修	IME 101	医療プロフェッショナルリズム入門
	IME 102	医療入門
	IME 103	行動科学 I
	RMC 100	医学研究入門 I
	ENG 101	Practical English for TOEFL I
	ENG 102	Practical English for TOEFL II
	ENG 103	TOEFL・IELTS演習
	SPH 101	スポーツと健康
	CHM 101	ライフサイエンスのための化学
	PHY 101	人体物理学
	BIO 101	細胞生物学
	MTH 101	統計解析への数学
	MTH 102	データサイエンス基礎
	INBM 030	組織細胞生物学
	自然科学総合実習	CHM 111
CHM 112		(化学)生体物質の分離と定量の基礎
PHY 111		(物理)物理学入門
PHY 112		(物理)ミクロの世界から
BIO 111		(生物)顕微鏡観察
BIO 112		(生物)カエルの解剖
MTH 111		(数学)情報処理 I
MTH 112		(数学)情報処理 II
PBL	PBL 101	水と生命
	PBL 116	健康を支える科学
	PBL 119	バイオマテリアルと医療
	PBL 102	法則と方程式
	PBL 103	プログラミングとアルゴリズム
	PBL 104	素粒子の $\alpha$ $\beta$ $\gamma$
	PBL 105	医療の思想と倫理
	PBL 106	Medicine from a Global Perspective
	PBL 112	ことばの力, the power of words
	PBL 118	Listening Skills: Development and
	PBL 108	統計に基づいた科学的実証の実際
	PBL 115	医事ニュースを読み解く統計学
	PBL 109	生物の多様性
	PBL 117	錯覚錯視の原理と応用
PBL 111	Can we trust diet studies?	
PBL 120	身近な毒との微妙な関係	
PBL 121	Health Economics	
PBL 122	Diversity in culture, language use, and language learning	
自然科学系選択	BIO 090	Medical Biology in English
	MTH 123	2変数の微分積分入門
	PHY 123	相対論入門:時空とエネルギー
	BIO 123	ヒューマンバイオロジー
CHM 123	分子の形	
語学系選択	ENG 130	Introduction to ECFMG
	ENG 111	Academic English for TOEFL I
	ENG 112	Academic English for TOEFL II
	ENG 113	Academic English for TOEFL III
	ENG 114	Academic English for TOEFL IV
	ENG 115	Academic English for TOEFL V
	ENG 116	Academic English for TOEFL VI
	ENG 117	Academic English for TOEFL VII
	ENG 121	TOEFL特別演習 I (ABC)
	ENG 122	TOEFL特別演習 II (CDE)
	ENG 123	TOEFL特別演習 III (ABC)
	ENG 124	TOEFL特別演習 IV (CDE)
	GER 101	ドイツ語 I
	GER 102	ドイツ語 II
	FRC 101	フランス語 I
	FRC 102	フランス語 II
	CHI 101	中国語 I
	CHI 102	中国語 II
JPN101	日本語リテラシー	
JPN102	日本語アカデミックライティング	

分類	ナンバリング	科目名
人文社会科学系選択	HSB 101	コミュニケーション論
	HSB 105	生きる意志(倫理学)
	HSB 107	医療社会学
	HSB 108	医療の経営学
	HSB 109	医療行為と法
	HSB 110	文化の中の健康
HSB 111	メディカル・ヒューマニティーズ	
自由選択	ELE 101	新しい世界を拓いた人々
	ELE 102	知の統合
	RMC 110	医学研究入門 II
	RMC 120	科学研究のための基礎
	RMC 130	科学研究ゼミナール
ELE 103	マリン実習	
スポーツ健康科学部(医療看護学部)開講科目	ELE 111	日本国憲法
	ELE 112	歴史学A・B
	ELE 113	音楽A・B
	ELE 114	心とからだの哲学【人間の生き方】
	ELE 115	法学
	ELE 116	美術A・B
	ELE 117	心理学
	ELE 118	社会学A・B
	ELE 119	経済学
	ELE 120	日本文学A・B
	ELE 121	経営学
	ELE 122	広告論
	ELE 123	社会心理学
	ELE 124	発達心理学A・B
	ELE 125	メディア経営論
	ELE 126	スポーツ外傷・障害学
	ELE 127	スポーツと栄養

略の解説	IME	Introduction to Medicine
	RMC	Research, Medicine, and Career
	SPH	Sports and Health
	BIO	Biology
	CHM	Chemistry
	PHY	Physics
	MTH	Mathematics
	PBL	Problem Based Learning
	GER	German
	FRC	French
	CHI	Chinese
	JPN	Japanese
	HSB	Human, Society, and Health
	ELE	Elective
INBM	Integrative Basic Medicine	

医学部ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)	DP-1	DP-2	DP-3	DP-4	DP-5
	知識・理解	思考・判断	興味・関心	態度	技能
科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術が身についている。	○				○
不断前進する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を身につけている。			○	○	
常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を慮り、慈しむ心(学是「仁」)が涵養されている。		○			
チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身についている。					○
グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身についている。	○				○



2022年度 M2～M6 ナンバリング

【医学部2年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎 医学	INBM 201	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneA	組織学(各論)/神経解剖学
	INBM 202		ZoneB	生化学/発生/症例検討
	INBM 203		ZoneC	動物生理学/植物生理学/薬理学/症例検討
	INBM 204		ZoneD	感染・免疫/症例検討
	ANA 101	ANA:Anatomy	Unit1	解剖学
体験 実習 等	PDBS 101	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	基本手技	
	PDBS 110		救急医学実習	
	PDBS 120		医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム	
	PDBS 130		医療体験実習	
	PFR 101	PFR : Preparation For Research	医学研究 I	
	PDBS 010	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	OSCE運営補助	
語学	ENG 201	ENG : English	English	English for Medicine I

【医学部3年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
基礎 医学	SMGH 101	SMGH : Social Medicine & Global Health	ZoneE	社会医学序論/疫学・統計学
	INBM 207	INBM : Integrative Basic Medicine	ZoneF	病理・病態/症例検討
	IRM 201	IRM : Introduction to Research Medicine	基礎ゼミナール	
臨床 医学	INCM 301	INCM : Integrative Clinical Medicine	Group1	消化器・外科一般
	INCM 303		Group2	心臓・血管・呼吸・胸郭・縦隔
	INCM 305		Group3	腎・生殖・泌尿器
	INCM 306		Group4	脳神経・精神・心身・老年医学
	INCM 309		Group5	感覚器・運動
	INCM 302		Group6	内分泌・代謝・栄養・アレルギー・膠原病・免疫・血液
体験 実習 等	PDBS 210	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	医療面接実習	
	PDBS 220		診察技法	
	PDBS 201		基本手技	
	PDBS 230		医療体験実習	
語学	ENG 301	ENG : English	English	English for Medicine II

【医学部4年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床 医学	INCM 311	INCM : Integrative Clinical Medicine	Group7	小児・周産期
	INCM 312		Group8	皮膚・頭頸部・感染症・中毒・災害・漢方
	INCM 300		Group9	臨床医学総論(症候論(臨床疫学・EBM)/ 感染症・感染制御/外科/救急・災害/腫瘍学・緩和医療/ 放射線/病理/臨床薬理/社会医学/倫理・医療安全/輸血 /医療面接/AI)
行動科学・ 社会医学	SMGH 102	SMGH : Social Medicine & Global Health	行動科学Ⅱ・社会医学	
臨床 実習	PDBS 310	PDBS : Patient-Doctor & Basic Skills	臨床実習前トレーニング	
	CBM 400番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M4 臨床コア実習	
語学	ENG 401	ENG : English	English	Clinical Skills for International Medicine

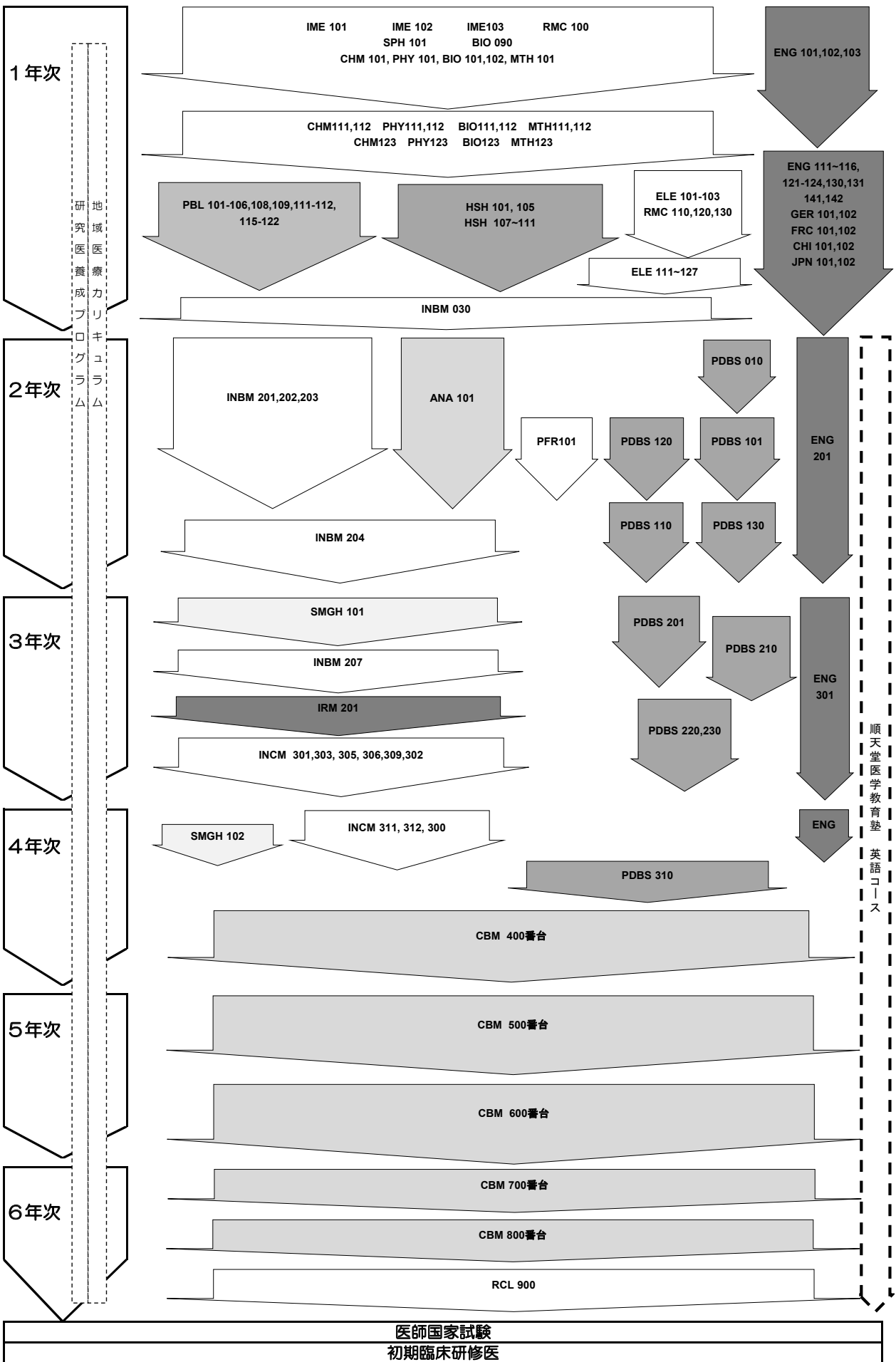
【医学部5年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床 実習	CBM 500番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床コア実習	
	CBM 600番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M5 臨床エキスパート実習	

【医学部6年次】

	ナンバリング説明		カリキュラム名称等	
臨床 実習	CBM 700番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	M6 臨床エキスパート実習	
	CBM 800番台	CBM: Clinical Bedside Medicine	学生インターンシップ実習(選択コース)	
必修 講義	RCL 900	RCL: Required Clinical Lecture Series	必修コース	

# 医学部カリキュラムマップ (2022年度)



# 医学部カリキュラム概略図（2022年度）

[前期]

学年 / 月	4月	5月	6月	7月	8月
1年次	入学式・入学式 オリエンテーション TOEFL フレッシュマンキャンパス	必修科目 医療プロフェッショナリズム入門 医療入門 医学研究入門Ⅰ Practical English for TOEFL Ⅰ Practical English for TOEFL Ⅱ TOEFL・IELTS演習 スポーツと健康 ライフサイエンスのための化学 人体物理学 細胞生物学 統計解析への数学 データサイエンス基礎	早期体験実習 病院見学	必修科目 医療プロフェッショナリズム入門 医療入門 医学研究入門Ⅰ Practical English for TOEFL Ⅰ Practical English for TOEFL Ⅱ TOEFL・IELTS演習 スポーツと健康 ライフサイエンスのための化学 人体物理学 細胞生物学 統計解析への数学 データサイエンス基礎	前期試験週間 夏季休暇
2年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone A 組織学(各論) [実習]組織学		Zone B 神経解剖学 [実習]脳解剖学	
		基礎医学 Unit 1 解剖学 [実習]人体解剖		生化学/発生 [実習]生化学・分子生物学	
3年次	新学期オリエンテーション	基礎医学 Zone E 社会医学序論/疫学・統計学 [実習]疫学・統計学		Zone F 病理・病態 [実習]病理学総論	
		基礎ゼミナール [実習]発表会		Zone E・Zone F 総合再試験 全体発表会	
4年次	新学期オリエンテーション	臨床医学 Group7 小児・周産期	臨床医学 Group8 皮膚・頭頸部・感染症・ 中毒・災害・漢方	行動科学Ⅱ 社会医学 [実習]行動科学Ⅱ社 会医学/法医学	Group9 臨床医学総論(症候論/臨床疫学・EBM) / 感染症・感染制御/外科/救急・災害/ 腫瘍学・緩和医療/放射線/病理/臨床薬理/ 社会医学/倫理・医療安全/輸血/医療面接/AI)
		(OSCE・CBTの自己学習)		G7総合再試験	G8総合再試験
5年次	新学期オリエンテーション	M5 臨床コア実習 (ローテーション⑥) (ローテーション⑦) (ローテーション⑧)			M5 臨床エキスパート実習
		M4,M5臨床コア実習でローテーションしていない診療科を1年間かけてローテーションする。			選択実習、海外実習
6年次	新学期オリエンテーション	M6 臨床エキスパート実習	学生インターンシップ実習 (選択コース)		必修コース
		臨床実習後期試験	期間 (第1クール) (第2クール) (第3クール) (第4クール)	総合試験	

初期臨床研修医  
大学院医学研究科

(医学部附属病院) 順天堂医院, 静岡病院, 浦安病院, 練馬病院 / (その他)

【後期】

9月		10		11		12		1月		2		3月	
8月	早期体験実習	PBL・データサイエンス基礎	医療プロフェッショナルズ入門	早期体験実習	医療プロ	TOEFL	医療プロ	年末年始休暇	医療プロ	後期試験週間	追・再試験期間	基礎医学入門	基礎医学入門定期試験
			行動科学		行動科学		行動科学						
			Practical English for TOEFL I		TOEFL I		TOEFL I						
			Practical English for TOEFL II		TOEFL II		TOEFL II		TOEFL II		組織細胞生物学 [実習]組織学	基礎医学入門定期試験	
			TOEFL・IELTS演習		TOEFL・IELTS演習		TOEFL・IELTS演習		TOEFL・IELTS演習				
			スポーツと健康		スポーツと健康		スポーツと健康		スポーツと健康				
			ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学		ライフサイエンスのための化学				
			人体物理学		人体物理学		人体物理学		人体物理学				
			細胞生物学		細胞生物学		細胞生物学		細胞生物学				
			統計解析への数学		統計解析への数学		統計解析への数学		統計解析への数学				
			データサイエンス基礎		データサイエンス基礎		データサイエンス基礎		データサイエンス基礎				
		選択必修科目	自然科学総合実習 (化学/物理/生物/数学)		自然科学総合実習		自然科学総合実習		自然科学総合実習				
		選択科目	自然科学系, 語学系, 人文社会学系, 自由選択科目		選択科目		選択科目		選択科目				

PBL (Problem Based Learning) : 水と生命/健康を支える科学/バイオマテリアルと医療/法則と方程式/プログラミングとアルゴリズム/素粒子の $\alpha\beta\gamma$ /医療の思想と倫理/  
 Medicine from a Global Perspective/ことばの力, the power of words/Listening Skills: Development and Assessment/統計に基づいた科学的実験/Assessment/統計に基づいた科学的実験/医事ニュースを読み解く統計学/  
 生物の多様性/錯覚錯視の原理と応用/Can we trust diet studies?/身近な毒との微妙な関係/Health Economics/Diversity in culture, language use and language learning

Zone C						Zone D					
動物生理学/ 植物生理学/薬理学						感染・免疫					
[実習]生化学・分子生物学						[実習]微生物学/免疫学/寄生虫病学					
基礎医学 Unit 1						[実習] ZoneC 総合再試験 Unit1 総合再試験					
解剖学						基本手技試験					
[実習]人体解剖						ZoneC 総合再試験 Unit 1 総合再試験					
English						English English 最終試験					
(体験実習) 医学研究 I / OSCE運営補助 / 救急医学実習 / 医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム						基礎医学研究医選択コース					
基本手技						基本手技再試験					

臨床医学Group 1				Group 2		Group 3		Group 4		Group 5		Group 6	
消化器・外科一般				心臓・血管・呼吸 ・胸郭・縦隔		腎・生殖・泌尿		脳神経・精神・ 心身・老年医学		感覚器・運動		内分泌・代謝・栄養・ アレルギー・膠原病・免疫・ 血液	
G1 総合試験				G2 総合試験		G3 総合試験		医療面接実習		G4 総合試験		G5 総合試験	
診察技法				診察技法 G1 総合再試験		診察技法		G3 総合再試験		診察技法		診察技法 G5 総合再試験	

臨床実習前 トレーニング		M4 臨床コア実習				M4 臨床コア実習	
CBT CBT 追再試	OSCE OSCE 追再試	(ローテーション①)		(ローテーション②)		(ローテーション④)	
		(ローテーション③)		(ローテーション⑤)		実習前コア実習	
		1. 内科系 : 循環器, 消化器, 呼吸器 2. 精神医学 (M5で実習を行う) 3. 神経学 4. 小児科				5. 外科系 : 上部・下部消化管, 肝胆脾, 乳腺・内分泌, 心臓血管外科学, 呼吸器外科, 低侵襲外科	
		6. 産婦人科 7. 救急・災害医学 8. 附属病院 : 静岡, 浦安, 越谷, 高齢者, 練馬					

M5 臨床エキスパート実習				M5 臨床エキスパート実習			
(診療科)				BSL 総合試験			
循内, 循外, 呼内, 腎内, 膠内, 血内, 代内, 精神, 神経, 小児, 上部, 下部, 肝・胆・脾, 低侵襲, 乳腺, 心外, 呼外, 児外, 脳外, 整外, 皮膚, 形成, 泌尿, 眼科, 耳鼻, 放射, 産婦, 麻酔A/B, 臨床, 総合・救急, 輸血, 腫瘍, 緩和, 小児, 地域							
選択実習, 海外実習				選択実習, 海外実習			
海外実習前トレーニング (コア) 試験再試験				海外実習前トレーニング (診断法, プレゼンテーション 等)			
BSL 総合再試験				BSL 総合再試験			

卒業試験期間				自己学習期間		自己学習期間		医師国家試験		卒業証書授与式	
卒業試験1 : 循内/上部/下部/肝胆脾/低侵襲/乳 腺	卒業試験5 : 皮膚/眼/耳鼻/整形/形成	Post clinical OSCE OSCE	卒業補助 試験A	卒業判定	自己学習期間 (学習支援)	自己学習期間 (学習支援)	医師 国家 試験	卒業 証書 授与 式			
卒業試験2 : 精神/神経/脳外/リハ	卒業試験6 : 腎内/泌尿/代内/膠原病		卒業補助 試験B								
卒業試験3 : 循内/呼内/心外/呼外	卒業試験7 : 小児/児外/産婦人科		卒業補助 試験C								
卒業試験4 : 血液/産婦内科/臨床検査/人体病理/ 救急A/B/緩和	卒業試験8 : 総合診療/放射/公衆衛生/衛生/法医/救急		卒業補助 試験D								
総合試験 再試験											

## M1 授業の目的と内容について

本学では、以下の観点からM1の一般教養教育ならびに基礎医学入門の授業を行う。

<目的>

- I 一般教養教育は、6年一貫の医学教育の重要な一部であり、医師として、社会人として不可欠な感性・人間性を養うものである。
- II M2以降の基礎・臨床医学へつながる、根本的な科学的方法と基礎医学知識を習得する。
- III 基礎的な医学の知識の習得を開始して、M2以降の基礎・臨床医学学習への期待感を高くもつ。
- IV PASSIVEな学習姿勢からACTIVEな学習姿勢へ転換する。

<一般教養教育の内容>

M1の4月～12月および1月にかけて、さくらキャンパスにおいて行う。

① 必修科目は次の13科目である。

語学系科目：

1. Practical English for TOEFL I
2. Practical English for TOEFL II
3. TOEFL・IELTS 演習

医学系科目：

4. 医療プロフェッショナリズム入門
5. 医療入門

6. 行動科学 I
7. 医学研究入門 I
8. スポーツと健康

自然科学系科目：

9. ライフサイエンスのための化学
10. 人体物理学
11. 細胞生物学
12. 統計解析への数学
13. データサイエンス基礎

- ② 選択必修科目は、自然科学総合実習の 8 科目の中から 6 科目以上、PBL から 1 科目を選択する。
- ③ 選択科目については、自然科学系、語学系、人文社会学系、自由選択科目から合計 11 科目以上を選択する。スポーツ健康科学部開講科目の選択履修も可能である。

<基礎医学入門の内容>

M1 の 2 月から 3 月にかけて、本郷・お茶の水キャンパスにおいて次の必修 1 科目を行う。

1. 組織細胞生物学

# 履修に関する基本事項について

## 1. 履修方法について

- ① 学年で学習する授業科目は、毎年度当初に当該学年のオリエンテーション時に教育要項等を配布する。
- ② 科目の学習にあたっては教育要項を利用する。
- ③ 一般教養（1学年の4月～12月および1月）の科目については、必修、選択必修、選択の各科目について、履修申請を指定の期日に行う。また、一般教養の科目における履修科目数は、33科目を上限とする。
- ④ 基礎医学入門（1学年の2月・3月）の科目については、すべて必修科目のため履修申請の必要はない。

## 2. 一般教養の科目について

一般教養は、4月から8月にかけての前期と、9月～12月および1月にかけての後期がある。必修科目、選択必修科目、選択科目があり、科目によってはクラスを分けて履修する授業がある。クラス分けの方法は、原則次の2通り。

イ. 学生番号によるクラス分け（自然科学総合実習他）

前番 }  
後番 } 入学者を番号順に前・後半の2グループに分け、前半を前番、後半を後番とする。

ロ. 学生の選択によるクラス分け

### (1) 履修登録について

- ① 履修を希望する一般教養科目は、すべて履修登録すること。履修登録を行わないで受講しても評価は受けられない。
- ② 履修登録は、前期授業開始前に、後期開講科目も含めて登録する。
- ③ 後期授業開始前に、後期開講科目の履修登録（科目の追加・削除）を行う。ただし、科目によっては履修制限があり、履修登録できない科目があるので、注意する。
- ④ 履修制限がかかる科目があるので、必ず履修条件に合致するかを確認し、履修登録を行う。履修条件に合致しない場合、いかなる事由があろうとも履修することはできない。
- ⑤ 履修登録手続は、ウェブ（Juntendo Passport）にて行う。
- ⑥ 前期登録科目の変更は、前期授業開始後、所定期間内に限り認められる。
- ⑦ 後期開講科目の変更は、後期授業開始後、所定期間内に限り認められる。
- ⑧ 前期・後期とも仮登録期間であっても、授業に出席しなければ欠席扱いとなるので注意する。

## (2) 必修・選択必修科目について

- ① 必修科目 13 科目 (ただし、TOEFL 演習については、この科目の定期試験に合格すると同時に、2 回の TOEFL ITP と 1 回の TOEFL iBT の受験は必修とし、2 回目の TOEFL ITP で 475 点以上、または TOEFL iBT で 55 点以上を取得しなければならない。)

## ② 選択必修科目

## イ) 自然科学総合実習

化学分野(「定性分析」・「生体物質の分離と定量の基礎」、物理分野(「物理学入門」・「ミクロの世界から」、生物分野(「顕微鏡観察」・「カエルの解剖」、数学分野(「情報処理Ⅰ」・「情報処理Ⅱ」)のそれぞれの分野から 1 科目以上、計 6 科目以上を選択する。

なお、本学学力入試にて物理を受験しなかった者、およびセンター利用で物理を高校で履修しなかった者は、「物理学入門」を必須とする。物理受験者および高校で物理を履修した者は、「ミクロの世界から」を必須とする。

注：必要最低履修科目数を超えて履修した科目数については、選択科目としてカウントすることができない。

## ロ) PBL：9 月を中心に実施される次の 18 科目の中から 1 科目を選択する。

「水と生命」、「健康を支える化学」、「バイオマテリアルと医療」、「法則と方程式」、「プログラミングとアルゴリズム」、「素粒子の  $\alpha\beta\gamma$ 」、「医療の思想と倫理」、「Medicine from a Global Perspective」、「ことばの力、the power of words」、「Listening Skills: Development and Assessment」、「統計に基づいた科学的実証の実際」、「医事ニュースを読み解く統計学」、「生物の多様性」、「錯覚錯視の原理と応用」、「Can we trust diet studies?」、「身近な毒との微妙な関係」、「Health Economics」 「Diversity in culture, language use, and language learning」

## (3) 選択科目について

- ① 進級条件は、自然科学系科目から 1 科目以上、語学系科目から 4 科目以上、人文社会学系科目から 2 科目以上を履修し、トータル 11 科目以上の選択科目に合格すること。従って、 $11 - (1 + 4 + 2) = 4$  科目は完全に自分の興味ある分野の講義を自らの責任において選択することとなる。
- ② 選択科目における成績は、成績の良かった上位 11 科目の合計をもって評価される。従って、興味のある科目を数多く選択しても不利にならないような配慮をしている。
- ③ 同一時限に同時開講されている科目を複数選択することはできない。
- ④ 前期、後期の選択科目の配分については、各自の選択に任されるが、十分注意して余裕をもって選択科目を決めること。
- ⑤ 「Academic English for TOEFL」は、1 科目以上の履修選択が望ましい。



- ⑥ 「ドイツ語Ⅱ」「フランス語Ⅱ」「中国語Ⅱ」は各外国語科目のⅠの講義を「合格」しているか、各外国語の外部検定試験に合格していない場合は履修できない。また、各外国語科目のⅡの講義を含めて進級要件である語学系選択科目数（4科目）を満たす場合には、前期成績（Ⅰの講義の成績）によって履修登録を見直す必要があることに十分留意すること。また、各外国語科目の該当外部検定試験の受験することが必要となっている。検定試験の受験料は自己負担となる。
- ⑦ 「マリン実習」は、経費として約10万円程度が別途必要となる。

#### （4）評価方法について

- ① 前期および後期の学期ごとに期末試験を受験する。出席日数が2/3に満たない場合は受験資格が認められない。合否判定には、出席状況、臨時試験やレポート成績、勉強態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。前期から後期にまたがる科目に対しては、前期と後期を総合して合否を判定する。
- ② 自然科学総合実習、PBLなどは当該授業のすべてに出席することは原則とする。授業時間内あるいは終了時に実技、レポート、試験等により判定する。
- ③ 一般教養科目における学業評価と評点およびGP（GPA\*を算出するための基礎点）の関係は、次の通りとする。

\* GPA（Grade Point Average）：

履修科目の評価に単位数を加味した加重平均値のことで、設定された算出基準・計算式で算出される。単に進級要件単位を取得するだけでなく、当該単位がどのような評価を伴うものであるかを可視化することにより、個々の学修の質をより高めることを目的とする。

判定	評価	評点	GP	内容
合格	A	100点～90点	4	特に優秀な成績
	B	89点～80点	3	優れた成績
	C	79点～70点	2	良好な成績
	D	69点～60点	1	合格と認められる成績
不合格	F	59点～0点	0	不合格
失格	失格(G)	/	—	全授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格(G)（「/」）はGPA算出の対象外となる。

## 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\begin{array}{|c|} \hline \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 4 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 3 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 2 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Dの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 1 \\ \hline \end{array} + \begin{array}{|c|} \hline \text{Fの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \hline \times 0 \\ \hline \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

- ④ 「不合格」と評価された一般教養科目は、再試験を受験することができるが、受験可能な上限科目数は3科目である。再試験の最高評点は60点となる。

なお、スポーツ健康科学部・医療看護学部・保健看護学部との共通開講科目および次の科目については再試験を実施しない。

- 1) 自然科学総合実習
- 2) PBL
- 3) 自由選択科目のうち

「新しい世界を拓いた人々」、「知の統合」、「マリン実習」、「科学研究のための基礎」、「科学研究ゼミナール」

※「/」と評価された科目も再試験は行わない。

### 3. 基礎医学入門の科目について

基礎医学入門は、2月から3月にかけての期間に1科目の必修科目を行う。

#### (1) 履修登録について

基礎医学入門1科目は、履修登録の必要はない。(1④を参照)

#### (2) 評価方法について

- ① 基礎医学入門1科目については、同日に行われる各科目の定期試験を受験する。各科目の講義出席回数が全講義回数の2/3に満たない場合または実習すべてに出席していない場合は、その科目の受験資格が認められない。すべての実習と一部の授業に全員が出席すること(詳細はM1カリキュラム表を参照)。各科目の合否判定には、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績や勉学態度等も加味されるので、日頃の学習態度にも万全を期すこと。

- ② 基礎医学入門 1 科目の定期試験については合格または不合格と評価される。不合格科目については、その科目の定期試験再試験を課す。各科目の定期試験再試験の判定は教務委員会で審議する。
- ③ 基礎医学入門科目における学業評価と評点および GP の関係は、次の通りとする。

判定	評価	評点	GP	備考
合格	A	100 点～90 点	4	—
	B	89 点～80 点	3	
	C	79 点～70 点	2	
	D	69 点～60 点	1	
不合格	F	59 点～0 点	0	
失格	失格(G)	/	—	全授業数の 3 分の 1 を超える欠席の場合 試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※ ※失格(G) (「/」) は GPA 算出の対象外となる。

#### 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\boxed{\text{Aの修得}} \times 4 + \boxed{\text{Bの修得}} \times 3 + \boxed{\text{Cの修得}} \times 2 + \boxed{\text{Dの修得}} \times 1 + \boxed{\text{Fの}} \times 0}{\text{履修単位数}}$$

#### 4. 授業欠席に関する注意事項について

- ① 授業をやむを得ぬ事情により欠席する場合は、事前に欠席届を科目責任者あるいは担当者に提出する。事後提出の場合は、原則、欠席後 1 週間以内に提出することとする。
- ただし、さくらキャンパスでのオムニバスでの授業科目は、科目責任者が不在の場合に限り、教務課に提出することも認める。
- ② 欠席届の様式は、ウェブ（Juntendo Passport）からダウンロードして使用する。

- ③ 欠席届には、本人の署名・捺印、記載漏れのないようにし、必ず担任教員の確認と署名をいただくこと。
- ④ 欠席届には、欠席事由が病気の場合は診断書を、その他の場合は事由を証明する書類を添付しなければならない。診断書や証明する書類が添付されていない場合は、無断欠席として受理されない。
- ⑤ また、欠席届提出における取扱いは、科目責任者あるいは担当者が判断する。

## 5. 試験に関する注意事項について

- ① 試験は、授業（講義・座学）への2/3以上の出席で受験することができる。実習が行われる科目については、講義出席の受験資格と併せて、実習のすべてに出席することが受験資格である。
- ② 学生証のない者および授業料未納の者は、試験場に入場できない。
- ③ 試験場では、必要以外の物品を机の上に置くことができない。ただし、携帯電話、モバイル機器等の扱いはその都度、指示に従うこと。また、一切の物品の貸借はできない。
- ④ 試験開始後30分以上経過したときは、試験場に入場できない。また、30分以内の退場もできない。
- ⑤ 試験中不正行為をなしたと認められた者に対しては、事情の如何を問わず直ちに退場を命じ、所要の処置をとる。下記の「試験中不正行為者に対する処置について」を参照。
- ⑥ 事故又はやむを得ぬ事情のため受験できなかった場合は、追試験を受験することができる。  
ただし、イ・ロの手順で申請を行わなければならない。行わなかった場合は追試験の対象外となるので、十分注意すること。  
イ. 原則、当該試験終了までに教務課に必ず連絡すること。  
ロ. 追試験申請期間内に病気の場合は診断書を、その他の場合は事由を証明する書類を添付し、規定の申請書の提出や追試験料を納入した上で受験することができる。口頭あるいは電話等での連絡では追試験を受験することはできない。  
また、病気（特に感染症）の場合、教務課に診断名を速やかに報告すること。
- ⑦ 基礎医学入門定期試験の追試験は、定期試験再試験をもってこれに代える。
- ⑧ その他の必要事項は、一般教養（前期・後期）期間はウェブ（Juntendo Passport）にて、基礎医学入門期間は掲示にて公示する。

## 6. 試験中不正行為に対する処置について

- ① 試験中試験監督者が、学生不正行為を発見して、その事実を確認したときは、その学生を試験場外に退出させる。
- ② 試験で不正行為を行ったものは、厳正な処分を課す。
- ③ 不正行為を行った学生の取扱いは、医学部長・教務委員長・学生部長・医学部一般教育協議会教員等により、検討を行う。
- ④ 試験終了後においても、当該科目担当者が不正行為があったと判断し、その事実を確認したときは、同様の処置を検討する。

## 7. 成績評価に係わる異議申し立て

成績評価と自己評価との間に齟齬があり、成績評価が以下に該当すると判断した場合は、異議を申し立てることができます。なお、成績評価の理由や根拠の開示に関する申し立ては、認められません。

- ①明らかに授業科目担当教員の誤記入であると思われるもの。
- ②シラバス（教育要項）等により周知されている達成目標及び成績評価の方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの。

### 【異議申し立ての方法】

異議申し立てを行う場合は、定められた期間内に「成績異議申し立て書」を教務課窓口に提出してください。

### 【異議申し立てに対する検討結果の通知】

「成績異議申し立て書」を提出した学生には、定められた期間に、検討結果を通知します。

(42)

### 【異議申し立ての条件】

成績の評価に係わる異議申し立てには、以下の全ての条件を満たしている科目であることが必要です。

- ①履修登録をした科目であること。
- ②授業の欠席回数は、授業回数の1/3未満であること。
- ③定期試験を受験していること。

なお、適正な成績評価を受けることは学生に認められた権利ですが、単に興味本位で申請することは控えてください。

(元号) 年 月 日

成績評価確認願

学部長

殿

所属 \_\_\_\_\_

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

連絡先 Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

(元号) 年度に受講した下記授業科目の成績評価について、疑問がありますので確認くださるようお願いいたします。

記

授業科目等

授業科目名 \_\_\_\_\_

曜日・時限 \_\_\_\_\_

担当教員名 \_\_\_\_\_

成績評価 \_\_\_\_\_

理由

## 8. 剽窃に関する対応

### 1. Turnitin\*を用いた学生自身による類似性チェック

- 1) 担当教員が類似性チェックをを求める際は、学生へ課題レポート提出を求める通達に Turnitin による類似性確認レポート（以下、類似性確認レポートと称する）を添付すること及び、類似性の許容範囲について明示する。
- 2) Turnitin マニュアル(別資料)に従って学生は類似性チェックを行い、判定を参考に課題レポートを修正する。最終的な類似性確認レポートを添付して、課題を提出する。

### 2. 提出された課題レポートの評価

- 1) 類似性の許容範囲については、課題内容に基づいて担当教員が判断する。
- 2) ①担当教員が類似性確認レポートの添付を指示した場合  
課題レポートとともに類似性確認レポートを評価し、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合には、オーガナイザーに「剽窃の疑い」を報告する。  
②担当教員が類似性確認レポートの添付を指示しなかった場合  
担当教員が剽窃の強い懸念を認めた際は、提出を求めた同一の課題レポートをすべて Turnitin を用いて、類似性チェックを行ったうえで、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合には、オーガナイザーに「剽窃の疑い」を報告する。
- 3) 「剽窃の疑い」と報告を受けたオーガナイザーは、類似性確認レポートを評価し、許容範囲を超えた類似性を有すると判断した場合は、剽窃ありと判定する。

### 3. 剽窃ありと判定した際の対応

担当教員の判断により、以下 1)①または②、いずれかの対応をとる。

- 1) ①教育的指導により学生に学修を促す対応を取る場合  
剽窃ありと判定した課題レポートを担当教員およびオーガナイザーが、学生を個別に指導して、再提出を求める。学生に指導を行った際、学生の応答にアンプロフェッショナルな態度が見られた場合には、その状況を記録してオーガナイザーに報告し、教務委員会に提出する。  
②課題レポートの提出をもって即座に成績評価を行う場合  
剽窃ありという判定に対してオーガナイザーは当該全体科目の評価点を0とし、「剽窃あり」を付記し経緯について記載した剽窃報告と類似性確認レポートを教務委員会に提出する。
- 2) 最終的な評価において剽窃と判定されたときには、オーガナイザーが当該学生に伝え、設定した疑義照会の締切（概ね7日間）を説明する。

### 4. 学生からの疑義照会（剽窃行為と判定された学生が成績評価に納得できない時）への対応

疑義照会を希望する学生は、オーガナイザーが設定した締切までに、書面をもって教務委員長に疑義照会の申し立てを行う。



## 5. 剽窃の認定について

- 1) 剽窃報告を受けた教務委員会は、疑義照会の締切後に剽窃について審議し、承認あるいは非承認を決定する。
- 2) 教務委員会において剽窃が承認された場合は、当該科目全体の評価点を0とする。
- 3) 教務委員会において剽窃が非承認であった場合は、教務委員長からオーガナイザーに類似性に関して、再度評価することを求める。

## 6. Turnitin 学生利用マニュアル⇒URL

※「Turnitin」(ターンイットイン)・・・学生から提出されるレポートや論文の内容を、独自のデータベースと照合し、“既存情報と、どの文章がどれだけ似ているか”という類似性をすばやく可視化してくれるオンラインツール。

# 疑義申立文書案

年 月 日

教務委員会委員長殿

医学部 年

学籍番号

氏 名

剽窃行為の判定に関する疑義申立

今回、提出した課題レポートにおいて「剽窃」という判定がなされたことについて、疑義申立致します。

1. 対象となった課題：

2. 疑義申し立て理由：

(46)

\*本申立書に、提出した課題レポートのコピーと Turnitin を用いた類似性確認レポートを添付して提出

## 2022年度 医学部 1年開講科目

分類	授業科目名	区分	進級要件
必修	医療プロフェッショナルリズム入門	必修	1 4科目合格すること  *1 科目合格に加え、TOEFL ITP475点以上、またはTOEFL iBT55点以上取得すること。 <iBT受験の必修化>
	医療入門	必修	
	行動科学 I	必修	
	医学研究入門 I	必修	
	Practical English for TOEFL I	必修	
	Practical English for TOEFL II	必修	
	TOEFL・IELTS演習 *1	必修	
	スポーツと健康	必修	
	ライフサイエンスのための化学	必修	
	人体物理学	必修	
	細胞生物学	必修	
	統計解析への数学	必修	
	データサイエンス基礎	必修	
基礎医学入門	組織細胞生物学	必修	
自然科学総合実習	(化学) 定性分析	選択必修	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上、計6科目以上を選択し合格すること  *2 入試にて物理未受験者「物理学入門」必須 入試にて物理受験者「ミクロの世界から」必須  *3 必要科目数を越えた分は、選択科目としてカウントすることができない。
	(化学) 生体物質の分離と定量の基礎	選択必修	
	(物理) 物理学入門	選択必修	
	(物理) ミクロの世界から	選択必修	
	(生物) 顕微鏡観察	選択必修	
	(生物) カエルの解剖	選択必修	
	(数学) 情報処理 I	選択必修	
	(数学) 情報処理 II	選択必修	
PBL	水と生命	選択必修	1科目を選択し合格すること
	健康を支える科学	選択必修	
	バイオマテリアルと医療	選択必修	
	法則と方程式	選択必修	
	プログラミングとアルゴリズム	選択必修	
	素粒子のαβγ	選択必修	
	医療の思想と倫理	選択必修	
	Medicine from a Global Perspective	選択必修	
	ことばの力、the power of words	選択必修	
	Listening Skills: Developing and Assessment	選択必修	
	統計に基づいた科学的実証の実際	選択必修	
	医事ニュースを読み解く統計学	選択必修	
	生物の多様性	選択必修	
	錯覚錯視の原理と応用	選択必修	
	Can We Trust Diet Studies?	選択必修	
身近な毒との微妙な関係	選択必修		
Health Economics	選択必修		
Diversity in culture, language use, and language learning	選択必修		
自然科学系選択	Medical Biology in English	選択	自然科学系から1科目以上選択し合格すること
	2変数の微分積分入門	選択	
	相対論入門：時空とエネルギー	選択	
	ヒューマンバイオロジー	選択	
	分子の形	選択	
語学系選択	Academic English for TOEFL I	選択	語学系から4科目以上選択し合格すること  *4 「Academic English for TOEFL」は、1科目以上の履修選択が望ましい。  *5 ドイツ語・フランス語・中国語のIIの講義は、「I」の講義を「合格」していない場合は、履修できない。  *6 「日本語リテラシー」、「日本語アカデミックライティング」は留学生、帰国生などを主な対象とする。
	Academic English for TOEFL II	選択	
	Academic English for TOEFL III	選択	
	Academic English for TOEFL IV	選択	
	Academic English for TOEFL V	選択	
	Academic English for TOEFL VI	選択	
	Academic English for TOEFL VII	選択	
	TOEFL特別演習 I (ABC)	選択	
	TOEFL特別演習 II (CDE)	選択	
	TOEFL特別演習 III (ABC)	選択	
	TOEFL特別演習 IV (CDE)	選択	
	Introduction to ECFMG	選択	
	ドイツ語 I	選択	
	ドイツ語 II	選択	
	フランス語 I	選択	
フランス語 II	選択		
中国語 I	選択		
中国語 II	選択		
日本語リテラシー	選択		
日本語アカデミックライティング	選択		

分類	授業科目名	区分	進級要件
人文社会学系選択	コミュニケーション論	選択	人文社会学系から2科目以上選択し合格すること
	生きる意志 (倫理学)	選択	
	医療社会学	選択	
	医療の経営学	選択	
	医療行為と法	選択	
	文化の中の健康	選択	
	メディカル・ヒューマニティーズ	選択	
自由選択	新しい世界を拓いた人々	選択	選択科目としてカウント可
	知の統合	選択	
	医学研究入門 II	選択	
	科学研究のための基礎	選択	
	科学研究ゼミナール	選択	
マリン実習	選択		
スポーツ健康科学部 (医療看護学部) 開講科目	日本国憲法	選択	人文社会学系選択科目としてカウント可
	音楽A・B	選択	
	心とからだの哲学【人間の生き方】	選択	
	法学	選択	
	美術A・B	選択	
	心理学	選択	
	社会学A・B	選択	
	経済学	選択	
	日本文学A・B	選択	
	経営学	選択	
	広告論	選択	
	メディア経営論	選択	
スポーツ外傷・障害学	選択	自由選択科目としてカウント可	
スポーツと栄養	選択		

### ■ 進級要件

#### 【1】一般教養カリキュラム

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	13	
選択必修科目 (自然科学総合実習)	6	化学、物理、生物、数学の各分野から1科目以上
選択必修科目 (PBL)	1	
選択科目	11以上	自然科学系1科目以上 語学系4科目以上 人文社会学系2科目以上
<b>小計</b>	<b>31以上</b>	

※一般教養カリキュラムの履修科目数は、33科目を上限とする。

#### 【2】基礎医学入門

分類・区分	科目数	その他・要件
必修科目	1	

医学部1年カリキュラム全体 (【1】 + 【2】)

分類・区分	科目数	その他・要件
<b>合計</b>	<b>32以上</b>	

\* (A)・(B)は前期・後期とも同一の授業内容であるため、どちらか一方の選択のみ履修可。(ただし、前期A不合格の場合には後期B履修可)

\* 「人間の生き方」と「心とからだの哲学」はどちらか一方のみ履修可。

\* 「日本文学」、「日本文学(A)」、「日本文学(B)」は3科目のうち1科目のみ履修可。

2022 (令和4) 年度 M1 カリキュラム表  
2022(令和4)

Table with columns for month, day, week, and course details. It is divided into '前期授業期間' (First Semester) and '後期授業期間' (Second Semester). Courses include Japanese, English, Biology, Chemistry, and Physics. Includes a '追試験' (Retake Exam) section and a '基礎医学入門(本編)' (Introduction to Basic Medicine) section.

■一般教育カリキュラム

- 入学式4/5(火)
○新入生キャンプ(FC) 4/16(土)
○TOEFL試験(ITP)
・前期 4/7(木)1-2時限
・後期 1/12(木)1-2時限
○PBL日程 9/1(木)~9/14(水)
○施設実習関連
・施設実習 11/14(月)~11/18(金)

- 変則授業
・前期
水曜授業実施 6/18(土)
・後期
月曜授業実施 10/22(土)・11/26(土)・1/13(金)
水曜授業実施 12/3(土)

- 試験日程
・前期試験 7/25(月)~7/29(金)
・前期追試験 8/1(月)・8/2(火)
・後期試験 1/16(月)~1/20(金)
・後期追試験 1/23(月)~1/25(水)
・再試験 1/28(土)・2/4(土)

(注) \*スポーツ健康科学部開講科目
\*\*医療看護学部開講科目
A・B: 前後期とも同一内容の授業のため、前期or後期を選択すること。

○時間割(本郷)

Table showing class times for Honjo campus. Columns: 1時限, 2時限, 3時限, 4時限, 5時限, 6時限, 7時限, 8時限, 9時限, 10時限. Rows: 1, 2, 3, 4, 5.

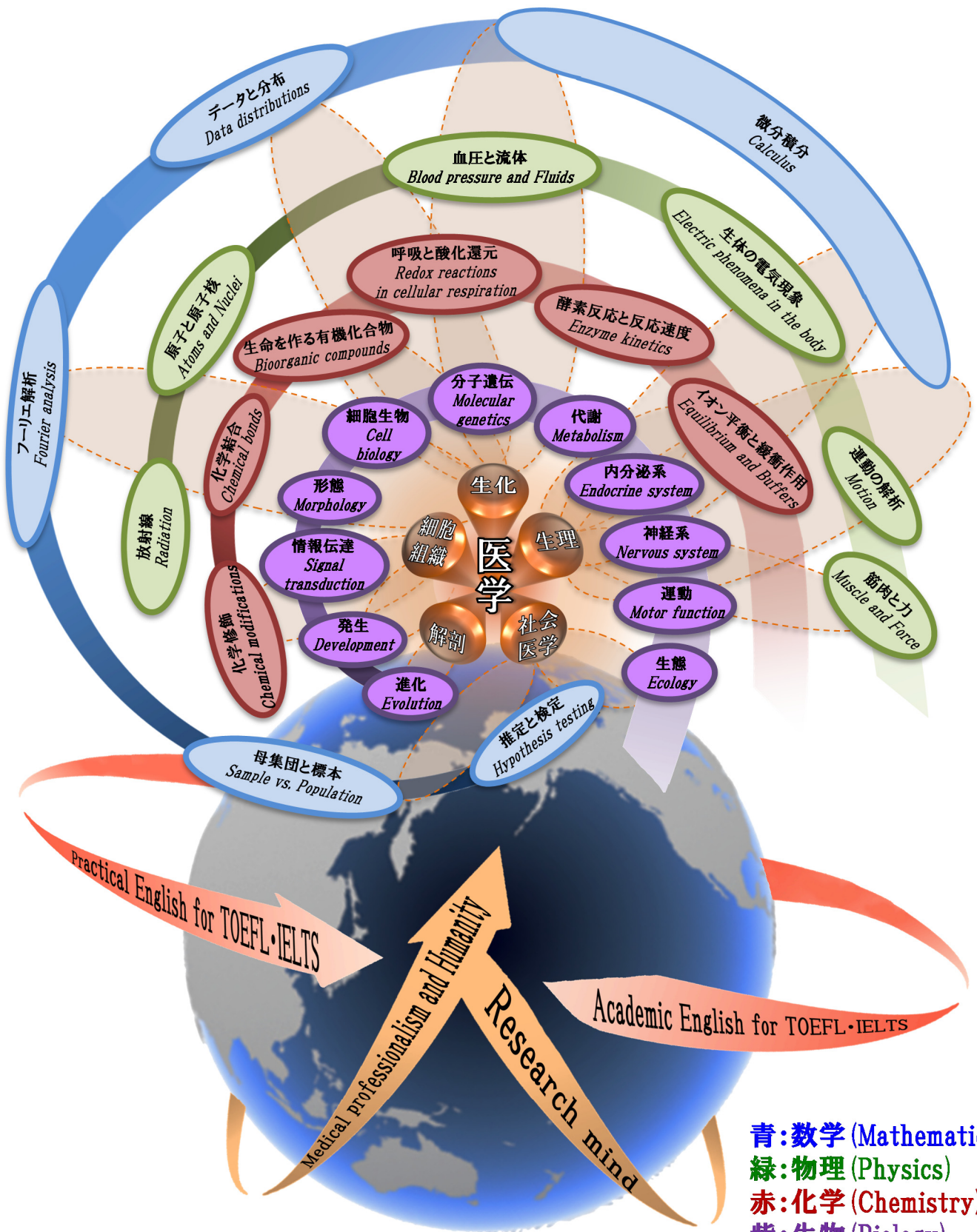
○時間割(さくら)

Table showing class times for Sakura campus. Columns: 1時限, 2時限, 3時限, 4時限, 5時限. Rows: 1, 2, 3, 4, 5.

組=組織細胞学

※授業時間にPretest・Posttestが実施される。

# 一般教育と医学への橋渡しイメージ図



青:数学 (Mathematics)  
 緑:物理 (Physics)  
 赤:化学 (Chemistry)  
 紫:生物 (Biology)  
 橙:英語 (English)



科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織細胞生物学	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人
学習内容・概要			
<p>《統合カリキュラムにおける組織細胞生物学の位置づけ》</p> <p>解剖学は大きくマクロレベルの肉眼解剖学(骨学を含む)、ミクロレベルの組織学(顕微解剖学)に大別される。さらに細胞生物学、(中枢)神経系のマクロ・ミクロレベルを統合した脳(神経)解剖学、発生学も解剖学に含まれる。本学では2つの解剖学担当講座がこれらを分担して担当している。M1基礎医学入門では骨学と組織細胞生物学(細胞生物学+組織学総論)、M2ZoneAでは組織学各論と脳解剖学、Unit1では肉眼解剖学、ZoneBでは発生学を学習する。組織染色法や観察技術については組織学実習に加えて、医学研究Iにおいて学習する。</p> <p>人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では総論として人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4組織の成り立ちを細胞レベルで学習する。加えて、全身に存在する粘膜、運動器などについて「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。M2 ZoneAの各論では消化器系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2 ZoneAの学習を円滑に進めるために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。</p> <p>組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解しておくように</p>			
学習目標			
<p>[一般目標]</p> <p>①人体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能について理解することができる。</p> <p>②多細胞生物の細胞間相互作用について分子レベルで理解することができる。</p> <p>③人体の組織が四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の組み合わせからなることを説明できる。</p> <p>④講義前後の自己学習を通して、学習内容から重要な点を見出し、アウトプットするための簡潔に文章や図表をまとめる習慣をつける。</p> <p>⑤諸講義で登場した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。</p>			
<p>[到達目標]</p> <p>①生物を構成する分子の基本的構造および機能を説明できる。</p> <p>②細胞内小器官、細胞膜の基本的構造と機能を説明できる。</p> <p>③細胞間相互作用の分子メカニズムについて説明できる。</p> <p>④四大組織(上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織)の特徴、体内分布について説明できる。</p> <p>⑤運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</p> <p>⑥本カリキュラムでの習得内容を応用し、組織細胞の機能の破綻と各種病態の関係について説明することができる。</p>			

## 自己学習(準備学習)

《記述プール問題の利用によるactive learning》

M1組織細胞生物学、M2ZoneA、ZoneBでは講義あたり3問前後記述プール問題が予め配布され(資料集に添付)。各試験で出題される。

必ずノートを準備し、1問あたりA4半分ぐらいに要点を簡潔にまとめること。A4の下半分には問題に関連した重要な図表を貼付けるか、自分で写す。いくら美しく詳しい解答集を作成しても、アウトプットできなければ、得点につながらない。詳しいノートは資料集としてすでに配布している。

一般に、ライセンスのための勉強は、効率化が極めて重要である。医学生の場合、学習項目を減らすことでの効率化は難しい(何故か考えてみよ)ため、学習の「過程」を効率化するしかない。解剖学では、重要な事柄は「決まっている」ため、それを問題として予め提示して、重要項目をバランスよく優先的に学習し、「アウトプットできる知識」にすることがプール問題の最大の目的である。プール問題を講義前の予習復習内容と関連させ、講義から重要なポイントを見つけることで効率のよい自己学習が可能となる。アウトプット(=試験で短時間に正解を出す)できるよう、各項目につき簡潔にまとめる必要がある。その際、文章だけでなく、教科書や資料集をもとに自分の手で簡単な図表を描くことで効率的に理解する習慣を身につけてほしい。自分で解答を作るactive learningの過程が知識を定着させる上で極めて重要で、まとめ方は人それぞれであり、同級生や先輩の解答をコピーして覚える(passive)だけでは十分なアウトプットは期待できない。また誤った/見当違いの答えを丸覚えすると零点になる恐れがある(昨年度多数あり)。まとめたノートをそのままCBT対策に活用できるよう、十分に準備してほしい。

《manabaの活用》

e-learning支援のためのmanabaにて、過去の講義の動画を事前に配信して効率的な予習を促す予定である。更に、各講義に関連した国家試験の過去問や、有用な動画のリンクを講義当日までにコースニュースとして配信するので利用して欲しい。プール問題の意図や講義に関する質問はmanabaの掲示板を通して行うこと。講義担当者ないし科目責任者もmanabaを通してできるだけ速やかに回答する。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】1時限あたり 予習:45分、復習:45分

## 学習上の注意点

組織細胞生物学は、基礎医学の最初のステップであり、これ以降の講義を理解するための基礎になる。したがって、ここからよいスタートを切ることが、今後のステップに進むための重要である。そのため、理解しにくい項目がある場合にはそのままにせず、講義担当者に積極的に質問すること、連続性のある講義を休まないようにすることが大切である。講義にあわせて下記教科書を用いた予習・復習を行う習慣を出来るだけ早く身につけることが重要である。また、資料集は教科書ではなく、講義の補助に過ぎないことに留意されたい。講義ではこれら教科書および資料集の中の特に重要なポイントが強調される。従って講義に出席して効率良く学習するスタイルを早く身に付けることが肝要である。組織細胞生物学は様々な臓器の細胞を例に挙げて講義が進められる。言い換えると、様々な臓器について学習する初めての機会となる。一連の講義で学習した臓器の構造と役割についての概略を理解しておくことは、今後の講義実習を円滑に進める上で重要となる。

組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。実習は全員出席のこと。実習問題と講義に関する選択問題は過去問があり、過去3年分が配信される。例年試験では重要な箇所が出題されるので、過去問を解くことは重要事柄を効率良く習得する上で極めて重要である。しかし、過去問と同一の問題が出題されることは稀であるため、過去問だけの学習では不十分である。プール問題については上記を参照されたい。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。

## 成績評価方法・基準

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

成績評価方法:

[原則、以下とおり判定します。]

・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。再試験の範囲、点数算出方法は本試験と同様である。

・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。

・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。

成績評価基準:

・原則、定期試験の結果に基づき、60点未満を再試験とする。

①②は指定教科書につき、必ず必ず購入し、講義実習に持参すること。  
特に②はM1組織細胞生物学、M2ZoneA組織学各論全般に渡り使用し、教科書の内容も試験範囲とします。本書はアトラスも兼ねているので、実習中も必要となります。

指定教科書

①「Essential 細胞生物学」(原書第5版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)

②「Ross組織学」(原書第7版)(Ross&Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)

参考書

③「組織細胞生物学 原書第三版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)

④「標準組織学 総論 第5版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)

⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)

科目名	科目コード	単位数	責任者
基礎医学入門 組織学実習	INBM 030	5 (基礎医学入門 全体)	神経生物学・形態学講座 小池 正人
<b>学習内容・概要</b>			
<p>人体のミクロレベルの解剖学である組織学は織物に例えると総論の「縦糸」と各論の「横糸」からなり、人体のミクロレベルの構造を理解するためにはどちらも必須である。組織細胞生物学では人体を構成する上皮、支持、筋、神経の4組織の成り立ちを細胞レベルで学習するための21コマの講義を実施する。併せて、組織学(顕微解剖学)の総論とその実際を観察するための実習を行う。人体を構成する器官は、その主たる機能を実行する細胞群(実質細胞)とそれを支える環境(支持組織)からなる。同一の機能を持つ細胞の集団を組織という。器官は、様々な組織の集団で構成される。また、器官には組織を支えるための骨格となる構造がある。組織細胞生物学の真の目的は、人体の医学生物学的な構成原理を学ぶことである。この理解のために、実習で光学顕微鏡に習熟することが求められる。M2ZoneAの組織学各論では消化器系、内分泌系など各器官レベルの組織構築について「四大組織の組み合わせ」の視点で学習する。従って、基礎医学入門で得られる組織学総論の知識はM2ZoneAの円滑なスタートを切るために極めて重要であり、十分に学習する必要がある。</p> <p>組織学では「個体-器官-臓器-組織-細胞-細胞内小器官-分子」の階層のうち臓器～細胞内小器官レベルの構造について学習する。その点で、組織学は個体～臓器レベルの構造を学習する肉眼解剖学(Unit1)、細胞～分子レベルの学習が主体の生化学・分子生物学(ZoneB)、臓器別の機能について学習するZoneCのいずれとも有機的な連携を可能とする重要な位置を占めていることをよく理解してほしい。</p> <p>組織細胞生物学は1ヶ月という短期間に多くの講義実習が設定されているため、効率良い学習が重要である。組織学実習は講義で学習した内容について顕微鏡で観察するactive learningであり、実習中に講義の知識と実習内容を連携させるように努めてほしい。組織細胞生物学の総合成績での実習試験のウエイトは大きい。</p>			
<b>学習目標</b>			
<p>[一般目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①上皮組織、結合組織、血球、骨・軟骨、筋組織、神経組織を組織標本の上で同定できる。</li> <li>②人体各器官の組織標本を顕微鏡で観察してその組織構築を同定できる。</li> <li>③電子顕微鏡写真でいろいろな細胞の形態上の特徴を記載し、機能との関連を考察できる。</li> <li>④運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</li> <li>⑤各実習で観察した臓器の構造と役割についての概略を説明できる。</li> </ol>			
<p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①顕微鏡の使用方法を修得する。</li> <li>②バーチャルスライドの使用方法を習得する。</li> <li>③細胞の構造を光学顕微鏡、電子顕微鏡レベルの細胞の構造を説明できる。</li> <li>④上皮組織を細胞レベルで説明できる。</li> <li>⑤結合組織の構造と機能を説明できる。</li> <li>⑥各種血球の組織学的分類ができる。</li> <li>⑦軟骨・骨組織の構造と機能を説明できる。</li> <li>⑧筋組織の構造と機能を説明できる。</li> <li>⑨神経系の構造と機能を説明できる。</li> <li>⑩運動器(関節)、外皮(皮膚)、粘膜(腸管)の基本構築について四大組織に基づき説明できる。</li> </ol>			



## 自己学習(準備学習)

<予習> 神経生物学・形態学講座オリジナルの実習書を配布する。講義内容と照らし合わせながら、予習すること。  
 <復習> 本実習では内分泌系、生殖器、感覚器を除く様々な臓器の切片を観察する。各実習で観察した臓器については、その構造と役割についての概略について学習するように。

【自己学習(準備学習)に必要な時間】 1時限あたり 予習:45分, 復習:45分

## 学習上の注意点

< 実習及び実習室の利用について >

①忘れ物をしないこと:実習書、教科書、資料集を持参し、適宜これらの資料を参照しながら実習を進めること。②遅刻、欠席(忌引および学校伝染病などやむを得ない場合以外)早退は一切認めない。③事前に予習を行うこと。④飲食禁止。⑤実習室では携帯電話の使用(電話/端末としてもカメラとしても)を禁ずる。⑥先輩の過去のノートを実習室に持ち込むのは厳禁。⑦携帯に撮影した像の利用についても厳禁。

< 標本及び備品の利用について >

①標本は予備がほとんどない貴重なものばかりである。扱いに注意すること。万が一破損した場合はすぐに教員に届け出ること。②光学顕微鏡を乱暴に取り扱わないこと。不具合が有ればすぐに教員に問い合わせること。③共通の実習書を使用した後は必ずもとの場所に返却すること。

< 復習の重要性 >

講義の内容を組織学実習での観察を通して定着させるように努めること。

## 課題(試験やレポート等)に関するフィードバック

各講義の質問はmanabaの掲示板に書き込むこと。できるだけ速やかに対応します。試験の講評、注意点はmanabaの試験の欄のコースニュースを通して配信する。試験の解答に対する疑義がある場合は解答配布後1日以内に教務課に届け出ること。

## 成績評価方法・基準

成績評価方法:  
 [原則、以下とお判定します。]  
 ・定期試験は講義あたり2問の選択問題と、実習標本に関する記述問題、数問のプール問題に基づく記述問題からなる。それぞれの試験を100点満点として採点し、原則、選択問題:実習問題:プール問題=4:3:3の割合で算出した得点を最終成績とする。再試験の範囲、点数算出方法は本試験と同様である。  
 ・実習は全出席が原則であり、正当な理由がない欠席は総合点からの大幅な減点ないし受験資格喪失の対象となるので注意すること。  
 ・また、講義は2/3以上出席しないと受験資格そのものを失うので注意すること。  
 成績評価基準:  
 ・原則、定期試験の結果に基づき、60点未満を再試験とする。

## 指定教科書・参考教科書・参考書等

特に②はM1組織細胞生物学、M2ZoneA組織学各論全般に渡り使用し、教科書の内容も試験範囲としますので、全員購入して下さい。本書はアトラスも兼ねているので、実習中も必要となります。  
 指定教科書  
 ①「Essential 細胞生物学」(原書第5版)(Albertら著 中村桂子・松原謙一監訳 南江堂)  
 ②「Ross組織学」(原書第7版)(Ross&Pawlina著 内山安男・相磯貞和監訳 南江堂)  
 参考書  
 ③「組織細胞生物学 原書第三版」(Abraham L. Kierszenbaum著 内山安男監訳 南江堂)  
 ④「標準組織学 総論 第5版」(藤田恒夫、藤田尚男著 医学書院)  
 ⑤「カラー図解 人体の細胞生物学」(坂井建雄、石崎泰樹編 日本医事新報社)

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
1/30 月 1限		オリエンテーション						
1/30 月 2限								
1/30 月 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-1:細胞の構造- 1①	細胞の成り立ち	細胞膜、細胞内膜、細胞内 小器官、細胞質	①②ともに指定教科書とす る。①「Ross組織学」 2核以外の細胞構造(23-73 頁)、3細胞核(74-84頁) ②「Essential細胞生物学」原 書第5版 第1章細胞:生命の基本単位 (1-27頁)、第11章膜の構造 (365-387頁)、第12章膜を 横切る輸送(389-395頁)、第 15章細胞内区画と細胞内輸 送(495-530頁)	①細胞のさまざまな研究法に ついて説明できる。 ②細胞内小器官の構造と機 能、およびその代表的な構成 分子について概説できる。 ③小胞体、ゴルジ体、リソソ ームについて、その生理的な役 割について説明できる。 ④ミトコンドリア、ペルオキシ ソームの構造と微細構造とそ の機能について説明できる。 ⑤核の構造、染色体とゲノム DNAの関係、DNAの基本構 造を説明できる。	組織細胞-4,5細胞 内区画と細胞内輸 送-1,2の内容と関 連付けて学習するこ と。	講義
1/30 月 4限		組織細胞-1:細胞の構造- 1②						講義
1/30 月 5限		組織細胞-2:細胞の構造- 2①	核以外の各種細胞内小器 官	小胞体、ゴルジ装置、リソ ソーム、ミトコンドリア、ペル オキシソーム				講義
1/30 月 6限		組織細胞-2:細胞の構造- 2②						講義
1/30 月 7限		組織細胞-2:細胞の構造- 3①	核と染色体	核、核小体、核膜、染色体				講義
1/30 月 8限		組織細胞-2:細胞の構造- 3②						講義
1/31 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-4: 細胞内区画と細胞内輸送 -1①	細胞内区画とタンパク質の 選別	核膜、ミトコンドリア、ペルオ キシソーム、小胞体、リボ ソーム、シグナル配列、シャ ペロン	①②ともに指定教科書とす る。①「Ross組織学」 2核以外の細胞構造(23-73 頁)、3細胞核(74-84頁) ②「Essential細胞生物学」原 書第5版 第1章細胞:生命の基本単位 (1-27頁)、第15章細胞内区 画と細胞内輸送(495-530頁)	①細胞内での物質の輸送機 構の原理について説明でき る。 ②小胞体、ゴルジ体、リソソ ームについて、その生理的な役 割について説明できる。 ③小胞体による分泌経路、エン ドサイトーシスについて説明 できる。 ④オートファジーの過程とそ の役割について説明できる。	組織細胞-1-3細胞 -1,2,3の内容と関 連付けて学習するこ と。	講義
1/31 火 2限		組織細胞-4: 細胞内区画と細胞内輸送 -1②						講義
1/31 火 3限		組織細胞-5: 細胞内区画と細胞内輸送 -2①	細胞内における小胞の輸 送	小胞体、ゴルジ体、分泌小 胞、リソソーム、エンドサイ トーシス、エキソサイトーシ ス、ファゴサイトーシス、 SNARE				講義
1/31 火 4限		組織細胞-5: 細胞内区画と細胞内輸送 -2②	講義					
2/1 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-6:上皮組織①	上皮組織の基本構築と分 類、腺組織	単層上皮、重層上皮、扁平上 皮、立方上皮、円柱上皮、多 列上皮、移行上皮、微絨毛、 線毛、不動毛、接着複合体、 基底膜、外分泌、内分泌、全 分泌、部分分泌、開口分泌、 透出分泌、アポクリン分泌	「Ross組織学」(Ross & Pawlina著 内山安男・相磯貞 和監訳 南江堂) 4組織:概念と分類(97-104 頁)、5上皮組織(105-149 頁)	①代表的な上皮組織について形 態学的特徴と具体例を説明でき る。 ②上皮細胞の極性と接着複合 体・基底膜の関係について概説 できる。 ③上皮組織と腺の関係について 概説できる。		講義
2/1 水 2限		組織細胞-6:上皮組織②						講義
2/1 水 3限		組織細胞-7: 細胞接着・細胞の極性①	細胞の相互認識および結 合の機構	線毛、微絨毛、不動毛、接 着複合体、密着結合、接着 帯、接着斑、ギャップ結合、 基底膜、ヘミデスモソーム、 局所接着、カドヘリン、イン テグリン	「Essential細胞生物学」原書 第5版 第20章細胞のつくる社会 (701-709頁) 「Ross組織学」 5上皮組織(105-149頁)	①極性のある細胞の構造的 特徴について説明できる。 ②細胞間接着因子の種類と 特徴を説明できる。 ③接着複合体の種類と構造 を説明できる。		講義
2/1 水 4限		組織細胞-7: 細胞接着・細胞の極性②						講義

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/1 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:細胞	光学顕微鏡を用いて細胞の構造を観察することで光学顕微鏡の使い方を学ぶ	細胞膜、細胞質、核、細胞内小器官(ミトコンドリアとゴルジ装置)、染色体、染色法	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 組織学標本と光学顕微鏡を適切に取り扱うことができる。 ② パーチャルスライドシステムを利用できる。 ③ 組織学標本の観察とスケッチの目的と意味が理解できる。 ④ 1個の細胞について光学顕微鏡で得られる像について説明できる。	① 実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ② 目的を理解して観察・スケッチをする。	実習
2/1 水 6限								
2/1 水 7限								
2/1 水 8限								
2/2 木 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-8:細胞外マトリックス①	細胞の周りの世界	細胞外マトリックス、コラーゲン線維、細網線維、弾性線維、線維芽細胞、基底膜、プロテオグリカン、インテグリン、ラミニン、線維芽細胞、マクロファージ、肥満細胞、脂肪細胞、形質細胞、疎性結合組織、緻密結合組織、脂肪組織、胎児性結合組織	①②ともに指定教科書とする。 ①「Ross組織学」5上皮組織(133-143頁)、6結合組織(156-193頁)、9脂肪組織(254-269頁) ②「Essential 細胞生物学」原書第5版第20章 細胞のつくる社会(691-701頁)	① 結合組織の種類と構成する細胞を列挙し、それらの形態学的特徴と機能を説明できる。 ② それぞれの結合組織が存在する臓器を列挙できる。 ③ 細胞間質(線維成分と基質)の種類を列挙し、その特徴を説明できる。 ④ 基底膜・細胞と結合組織の結合様式について説明できる。		講義
2/2 木 2限		組織細胞-8:細胞外マトリックス②						講義
2/2 木 3限		組織細胞-9:結合組織①	結合組織とその構成要素					講義
2/2 木 4限		組織細胞-9:結合組織②						講義
2/2 木 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:上皮組織	上皮細胞の形態と配列に基づき上皮を分類する。	単層扁平・立方・円柱上皮、重層扁平上皮、多列上皮、腺、微絨毛、基底膜	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 上皮組織を構成する細胞の形態とその配列の種類を知り、多様な機能との関係を説明できる。 ② 上皮細胞の頂上面の形態学的特徴と基底膜について説明できる。 ③ 終末部と導管からなる外分泌腺と上皮細胞との関係を説明できる。	① 実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ② 上皮組織とその下に存在する結合組織や血管、神経との関係を知る。	実習
2/2 木 6限								
2/2 木 7限								
2/2 木 8限								
2/3 金 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席すること。 ① 正当な理由があり欠席た者で追実習が完了していないもの。 ② これまでの実習状況を鑑み追実習が必要であると判断された者 ③ 自主的に復習を望むもの。		関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① これまでの諸実習で十分に学習できなかった項目について復習を行う。	① 実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/3 金 2限								
2/3 金 3限								
2/3 金 4限								

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/3 金 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:結合組織	結合組織の種類とその構成要素	疎性・密性結合組織、コラーゲン線維、弾性線維、線維芽細胞、脂肪細胞、肥満細胞、マクロファージ	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①結合組織を構成する細胞成分と細胞外マトリックスについて説明できる。 ②結合組織で見られる3種類の線維成分の特徴を説明できる ③疎性結合組織、緻密結合組織の違い、体内での分布について説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②全身に存在する結合組織の役割を包括的に理解する。	実習
2/3 金 6限								
2/3 金 7限								
2/3 金 8限								
2/6 月 1限	神経生物学・ 形態学講座 横田 睦美	組織細胞-10:血球の種類と役割①	血液の構成成分と白血球の分類	血清、血漿、赤血球、ヘモグロビン、白血球、顆粒白血球、好中球、アズール顆粒、好塩基球、好酸球、リンパ球、B細胞(Bリンパ球)、T細胞(Tリンパ球)、単球、血小板	「Ross組織学」 10血液(270-313頁)	①血液でみられる各々の成分を列挙し、成人における正常値について説明できる。 ②血液の各種細胞性分の種類、形態学的特徴、機能を説明できる。		講義
2/6 月 2限		組織細胞-10:血球の種類と役割②						講義
2/6 月 3限		組織細胞-11:骨髄と造血①	血球は骨髄で造られる	骨髄、造血幹細胞、骨髄系幹細胞、リンパ系幹細胞、造血促進因子	「Ross組織学」 10血液(270-313頁)	①造血器の変遷について説明できる。 ②骨髄の構造と機能について説明できる。 ③各種血球の分化について説明できる。	「細胞の分化」について血球の分化を例に学習する。	講義
2/6 月 4限		組織細胞-11:骨髄と造血②						講義
2/7 火 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-12:軟骨および骨組織①	軟骨・骨の構築	軟骨細胞、骨芽細胞と骨細胞、コラーゲン、ヒドロキシアパタイト、破骨細胞、骨層板、緻密質、ハヴァース系	「Ross組織学」 7 軟骨組織(194-213頁)、8 骨組織(214-253頁)	①軟骨組織の種類を列挙し、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造および骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。	骨学実習で長管骨と海綿骨の断面の構造を良く観察しておくこと。	講義
2/7 火 2限		組織細胞-12:軟骨および骨組織②						講義
2/7 火 3限		組織細胞-13:骨の発生とリモデリング①	骨化のメカニズム	骨芽細胞、破骨細胞、膜性骨化、軟骨内骨化、骨端軟骨、リモデリング、関節	「Ross組織学」 8骨組織(214-253頁)	①軟骨組織の種類、それらの組織学的特徴と機能を説明できる。 ②骨組織の組織学的構造、骨芽細胞と破骨細胞の機能を説明できる。 ③骨形成過程を組織学的観点から説明できる。 ④関節の構造を組織学的に説明できる。	骨学実習で長管骨と海綿骨の断面の構造を良く観察しておくこと。	講義
2/7 火 4限		組織細胞-13:骨の発生とリモデリング②						講義

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/7 火 5限	神経生物学・ 形態学教員	組織学実習:血液と細網組	血球を分類する	赤血球、白血球、血小板、リンパ球、骨髄、リンパ節、細網組織、染色体	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①血液の各種細胞性分を顕微鏡下に同定できる。 ②血液の各種細胞性分の種類、形態学的特徴、機能について説明できる。 ③血球を用いた染色体の観察法について理解する。 ④リンパ系組織に見られる細網組織について理解する。 ⑤骨髄の組織学的構造について説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/7 火 6限								
2/7 火 7限								
2/7 火 8限								
2/8 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-14:細胞骨格・細胞運動①	細胞形状の維持と変化、細胞運動に関わる分子	マイクロフィラメント、マイクロチューブル、中間径フィラメント、アクチン、チューブリン、モータータンパク、ATPase、滑り説、アメーバ運動、細胞分裂	「Essential 細胞生物学」原書第5版 第1章 細胞:生命の基本単位(22-25頁)、第17章 細胞骨格(573-607頁)	①中間径フィラメント、微小管、アクチンフィラメントの構造や機能が説明できる ②モータータンパク質の役割を理解する。 ③細胞運動における細胞骨格の役割が説明できる。		講義
2/8 水 2限		組織細胞-14:細胞骨格・細胞運動②						講義
2/8 水 3限	神経生物学・ 形態学講座 曾高 友深	組織細胞-15:筋組織①	筋の種類と構造	骨格筋、筋原線維と横紋、アクチンフィラメント・ミオシンフィラメント、筋鞘と筋小胞体、神経筋接合部、心筋、介在板、平滑筋	①「Ross組織学」11筋組織(314-355頁) ②「Essential 細胞生物学」原書第5版 第17章 細胞骨格(599-606頁)	①平滑筋・心筋・骨格筋の組織学的特徴と機能、分布を説明し、その差異を指摘できる。 ②運動神経終末(運動終板)の構造と機能を説明できる。		講義
2/8 水 4限		組織細胞-15:筋組織②						講義
2/8 水 5限	神経生物学・ 形態学教員	組織学実習:軟骨および骨組織	軟骨と骨の構造を観察する。	ガラス軟骨・弾性軟骨・線維軟骨、ハヴァース系、骨層板、骨芽細胞と骨細胞、破骨細胞、軟骨内骨化	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①軟骨・骨組織を構成する細胞と細胞外基質について説明できる。 ②軟骨・骨組織の成長と代謝について説明できる。 ③骨単位(オステオン)について組織学的に説明できる。 ④膜内骨化と軟骨内骨化のメカニズムについて説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。 ②骨組織が生きていて変化し続ける組織であることを理解する。	実習
2/8 水 6限								
2/8 水 7限								
2/8 水 8限								
2/9 木 1限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:予備日	以下の者は出席すること。 ①正当な理由があり欠席た者で追実習が完了していないもの。 ②これまでの実習状況を鑑み追実習が必要であると判断された者 ③自主的に復習を望むもの。		関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	①これまでの諸実習で十分に学習できなかった項目について復習を行う。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/9 木 2限								
2/9 木 3限								
2/9 木 4限								



	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/9 木 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:筋組織	骨格筋・心筋・平滑筋を区 別する。	骨格筋細胞、心筋細胞、平 滑筋細胞、筋原線維と横 紋、運動終板、筋紡錘	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 3種類の筋組織の光学顕 微鏡レベルでの形態的特徴 を説明できる。 ② 筋細胞の配列や結合組 織・血管・神経との関係を説 明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ②3種類の筋組織の 形態と機能を比較し て理解する。	実習
2/9 木 6限								
2/9 木 7限								
2/9 木 8限								
2/13 月 1限	神経生物学・ 形態学講座 日置 寛之	組織細胞-16:神経組織-1 ①	中枢神経系の構成要素	ニューロン、神経細胞体、 樹状突起、軸索、神経線 維、髄鞘、シナプス、神経 膠細胞(グリア細胞)	「Ross組織学」 12神経組織(356-393頁)	①中枢神経系と末梢神経系の区 分を説明できる。 ②中枢神経系のニューロンとグリア の構造と機能について説明で きる。 ③シナプスの基本構造を説明で きる。		講義
2/13 月 2限		組織細胞-16:神経組織-1 ②						講義
2/13 月 3限		組織細胞-17:神経組織-2 ①	末梢神経系の構成要素、 神経組織の変性・再生	末梢神経、シュワン鞘、神 経節、神経筋接合部、ワー ラー変性、神経分化	「Ross組織学」 12神経組織(356-393頁)	①末梢神経線維、神経節の 組織学的構造について説明 できる。 ②神経組織の変性・再生に ついて例を挙げて説明でき る。		講義
2/13 月 3限		組織細胞-17:神経組織-2 ②						講義
2/13 月 5限	生理学第一講座 小西 清貴	組織細胞-18:興奮の発 生、伝導、伝達①	神経細胞の電気的な活動 と、すばやく正確に情報を 伝え処理する仕組み	静止電位、活動電位、イオ ンチャンネル、無髄神経、有 髄神経、シナプス、伝達物 質、受容体	資料集を事前の一読し、不明 点を調べておくこと。	静止膜電位、活動電位がど のような機序で発生するか、 発生した活動電位がどのよ うに軸索を伝導し、シナプスで 伝達されるかを説明できる。		講義
2/13 月 6限		組織細胞-18:興奮の発 生、伝導、伝達②						講義
2/14 火 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:神経組織	中枢神経系・末梢神経系を 構成する細胞と線維を見 る。	ニューロンの樹状突起・細 胞体・軸索、髄鞘、有髄神 経線維・無髄神経線維、末 梢神経、神経節	関連講義の教科書と資料集 を復習したうえで、実習書を 予習しておく。	① 神経細胞(ニューロン)の 形態と極性について説明で きる。 ② 中枢神経系と末梢神経系 のニューロンとグリア細胞に ついて説明できる。 ③末梢神経線維、神経節に ついて組織学的に説明でき る。 ④無髄神経線維と有髄神経 線維の組織学的構造の違い について説明できる。	①実習に必要な、教 科書、実習書、資料 集などを忘れないこ と。 ②神経細胞の各部 位の形態と機能を理 解する。 ③実習終了後各自 の標本を整理する。	実習
2/14 火 6限								
2/14 火 7限								
2/14 火 8限								
2/15 水 1限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-19:粘膜・腺組 織①	中空性器官と実質性器官 の基本構造の観点から粘 膜と腺組織を理解する	器官系、実質性器官、中空 性器官、消化管の一般構 造、粘膜、上皮、漿膜、腺、 粘液腺、漿液腺	「Ross組織学」 5 上皮組織(105-108頁、 143-146頁)、16 消化器系II (568-571頁)	①上皮が重層扁平上皮から 変化する粘膜の部位を列挙 できる。 ②消化管を例として中空性器 官の基本構造について説明 できる。 ③腺組織の種類と基本構造 について説明できる。	この講義は消化器 系、呼吸器系、泌尿 生殖器系を理解す るうえで重要。 組織細胞-6の内容 を復習して講義に望 むこと。	講義
2/15 水 2限		組織細胞-19:粘膜・腺組 織②						講義

	担当	授業タイトル	サブ・タイトル	キーワード	準備学習(予習・復習等)	到達目標	注意点	授業形式
2/15 水 3限	神経生物学・ 形態学講座 小池 正人	組織細胞-20:外皮・運動器①	外皮・運動器(筋の付着、 関節)の基本構造	皮膚、真皮、皮下組織、汗腺、体壁、関節、関節軟骨、間接包、滑膜、腱、筋腱接合部、腱膜、腱鞘、腱骨接合部、筋膜、筋紡錘、骨膜、末梢神経、	「Ross組織学」 5上皮組織(133-143頁)、6結合組織(156-193頁)、7軟骨組織(194-213頁)、8骨組織(314-355頁)、12神経組織(356-393頁)	①体壁の構造を組織学的に説明できる。 ②広い興味での筋膜について組織学的に説明できる。 ③筋の骨への付着様式を組織学的に説明できる。 ④関節の基本構造を組織学的に説明できる。	この講義は肉眼解剖学の前半部分を理解するうえで重要。各関連講義の内容を復習して講義に望むこと。	講義
2/15 水 4限		組織細胞-20:外皮・運動器②						講義
2/15 水 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:4大組織まとめ	四大組織から見た運動器、 外皮、腸管	関節、関節軟骨、間接包、滑膜、腱、筋腱接合部、腱膜、腱鞘、筋膜、筋紡錘、骨膜、末梢神経、皮膚、真皮、皮下組織、汗腺、粘膜、粘膜固有組織、粘膜筋板、粘膜下組織、腺、平滑筋、粘膜下神経叢、筋間神経叢、漿膜	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 膝関節を構成する成分について四大組織の組み合わせに基づき説明できる。 ② 手掌の横断像で観察できる構造物(外皮を含む)について四大組織の組み合わせに基づき説明できる。 ③ 小腸を例として中空性臓器の基本構造について四大組織の組み合わせに基づき説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/15 水 6限								実習
2/15 水 7限								実習
2/15 水 8限								実習
2/17 金 3限	旭川医科大学 甲賀 大輔	組織細胞-21:①《特別講義》立体組織学	走査電子顕微鏡でみたからだの世界	パラフィン切片、染色、電子顕微鏡、立体組織	「Ross組織学」 1 方法(1-22頁)	①パラフィン試料作製法・染色法を説明できる。 ②透過電子顕微鏡と走査電子顕微鏡の違いを説明できる。 ③電子顕微鏡の試料作製法を説明できる。	本講義は特別講義につき出席を重視する。	講義
2/17 金 4限		組織細胞-21:②《特別講義》立体組織学						講義
2/17 金 5限	神経生物学・ 形態学講座教員	組織学実習:電子顕微鏡の世界	超微形態レベルの細胞・組織の構造の観察	細胞膜、細胞質、核、細胞内小器官、細胞骨格、細胞間接着、筋線維、シナプス、腱鞘、	関連講義の教科書と資料集を復習したうえで、実習書を予習しておく。	① 電子顕微鏡写真を見て、細胞内小器官、細胞表面の構造、隣接する細胞間の関係について説明できる。 ② 光学顕微鏡と電子顕微鏡のそれぞれの特性を説明できる。	①実習に必要な、教科書、実習書、資料集などを忘れないこと。	実習
2/17 金 6限								実習
2/17 金 7限								実習
2/17 金 8限								実習
2/22 水		基礎医学入門定期試験 組織細胞生物学定期試験						
3/3 金		組織細胞生物学定期試験 の再試験						

2022年度 医の原則・医学と医療の倫理等に関する内容が含まれるM1～M6授業一覧

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	医療プロフェッショナル入門・早期体験実習 (病院見学/施設実習/看護師同行実習)	生理学第二/医学教育 医史学	渡邊 マキノ 澤井 直	オリエンテーション (医師として、人間として)
		医学教育	奈良 信雄	医療者のプロフェッショナリズム: 国際社会の医療者プロフェッショナリズム
		情報センター 学術メディアセンター	吉田 剛 城山 泰彦	情報管理と情報リテラシー
		医史学研究室	澤井 直	医療の歴史
		学生部長 生理学第二/医学教育 医史学研究室	美田 敏宏 渡邊 マキノ 澤井 直	医療プロフェッショナリズム～先人に学ぶ～ 医師・医療者になるとは
		医学教育/呼吸器内科学 生理学第二/医学教育	鈴木 勉 渡邊 マキノ	病院の中で仕事をすること—医師の責務—
		生理学第二/医学教育 医史学研究室	渡邊 マキノ 澤井 直	コミュニケーションの基本
		医学教育/微生物学 医学教育/呼吸器内科学 生理学第二/医学教育 医史学研究室	關根 美和 鈴木 勉 渡邊 マキノ 澤井 直	病院見学 (本郷 順天堂医院)
		医学教育/微生物学	關根 美和	
		医療看護学部基礎看護学	高梨 あさき	看護の役割と機能
		生理学第二/医学教育 医史学研究室	渡邊 マキノ 澤井 直	病院見学の反省
		医学教育/微生物学	關根 美和	
		小児科学	細澤 麻里子	子どもの特性と全人的医療
		昭和大学 医学教育学講座	有馬 牧子	医療者のキャリア形成
		医学教育/呼吸器内科	鈴木 勉	高齢の患者さんへの対応
		医療看護学部高齢者看護学	杉山 智子	高齢者の介護について
		医療看護学部高齢者看護学	島田 広美	要介護高齢者の理解と技術支援
		リハビリテーション医学	谷 真美	高齢者のリハビリテーション医学
		総泉病院名誉院長	高野 喜久雄	高齢者医療の現場から
		医学教育/呼吸器内科学 生理学第二/医学教育 医史学研究室	鈴木 勉 渡邊 マキノ 澤井 直	施設実習
		医学教育/微生物学	關根 美和	
		解剖学・生体構造科学	市村 浩一郎	人体の形態をどのように学ぶか
		ライフケアシステム医師	辻 彼南雄	高齢者の在宅医療
		日本思春期学会幹事 生理学第二/医学教育 医史学研究室	宮崎 豊久 渡邊 マキノ 澤井 直	ネット社会のコミュニケーション概論
		病院管理学	川崎 志保理	医学生に必要な接遇・マナー
		医史学 医学教育/微生物学 生理学第二/医学教育	澤井 直 關根 美和 渡邊 マキノ	グループワーク: 医学生～医療者のプロフェッショナリズム
		医療看護学部 生理学第二/医学教育 医史学研究室	高梨 あさき 渡邊 マキノ 澤井 直	基礎看護学実習
		医学教育/微生物学 生理学第二/医学教育 医史学研究室	關根 美和 渡邊 マキノ 澤井 直	看護師同行実習
		医学教育/微生物学	關根 美和	
		M 1	医療入門	医学教育/下部消化管外科
微生物学講座	馬場 理			感染症
総合診療科学講座	内藤 俊夫			医学生から始める感染症への対策
浦安病院 救急診療科	石原 唯史			災害医療
医学教育/呼吸器内科	鈴木 勉			医療面接
浦安病院 救急診療科	平野 洋平			応急処置
スポーツ健康科学部	櫻庭 景植			救急医療に対する初期治療;スポーツ外傷を中心に
衛生学・公衆衛生学	遠藤 源樹			公衆衛生学の基礎
医学教育	武田 裕子			家庭医療総論
神経学	平 健一郎			若年者と高齢者の頭痛とめまい
熱帯医学・寄生虫病学	美田 敏宏			熱帯医学入門
皮膚科学	込山 悦子			女性医師というプロフェッション
M 1	行動科学 I	小児外科学	山高 篤行	外科道に魅せられて
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	臨床心理学入門
		保健看護学部	長沼 淳	身体の哲学
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	自殺関連行動
		国際教養学部	鈴木 美奈子	健康の行動科学
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	嗜癖行動
		医学部 衛生学・公衆衛生学	和田裕雄	老化と高齢者の特徴
		医学教育研究室	岡田 隆夫	行動経済学と医療
		保健看護学部	長沼 淳	身体にまつわる自己決定の問題
		呼吸器内科	瀬山 邦明	医学生・医療者であるという自覚と健康
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	神経症性障害の回避行動
		医学部 生理学第一講座	小西 清貴	神経生理学から見たところ
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	鬱
		スポーツ健康科学部	黄田 常嘉	発達障害の問題行動



学年		担 当		授 業 タ イ ト ル
M 1	PBL	保健看護学部	長沼 淳	医療の思想と倫理
M 1	生きる意志 (倫理学)	保健看護学部	長沼 淳	倫理学とは 医療倫理と生命倫理 自己決定権の歴史 自己決定権の理解 自己決定と他者決定 義務と権利 医療の倫理(1) 医療の倫理(2) 医療の倫理(3) 医療の倫理(4) 環境倫理について 環境倫理の課題
M 1	医療社会学	一般教育	佐伯 みか	オリエンテーション 自分の原点を言語化する。 医療ミス・事故の原因 医療ミス・事故防止対策 倫理・社会問題 患者満足度 医師-患者関係 医師-看護師関係 医療の質向上・保証 自分の原点と医療・医師
M 1	医療行為と法	一般教育	池田 良彦	法解釈の基礎① 法解釈の基礎② 法解釈の基礎③ 法的責任① 法的責任② 法的責任③ 個人の尊厳と法① 個人の尊厳と法② 出生に関する法律問題① 出生に関する法律問題② 終末期医療の法律問題① 終末期医療の法律問題②
M 1	文化の中の健康	病理・腫瘍学 公衆衛生学 国際教養学部 衛生学・公衆衛生学 池沢神経科病院 心臓血管外科学 衛生学・公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学 国際教養学部	樋野 興夫 岡本 裕樹 白山 芳久 野田 愛 儀藤 政夫 神作 麗 佐藤 准子 和田 裕雄 湯浅 資之	がん哲学 ソーシャルキャピタルと健康 伝統的治療と近代公衆衛生学による治療と予防 社会格差と健康格差 日本文化の中の精神医療 世界の多様な文化における健康(1) 世界の多様な文化における健康(2) 文明と睡眠 文化の中の健康への導入、自殺について考える
M 1	メディカル・ヒューマニティーズ	医史学研究室	澤井 直	はじめに:ヒューマニティーズとは はじめに:メディカル・ヒューマニティーズとは 科学哲学:境界(1) 科学哲学:境界(2) 科学哲学:境界(3) 科学哲学:境界(4) 文学:患者の心理描写(1) 文学:患者の心理描写(2) 映画:社会の中のハンセン病(1) 映画:社会の中のハンセン病(2) メディア:漫画が伝えるもの(1) メディア:漫画が伝えるもの(2)

学年		担 当	授 業 タ イ ト ル	
M 1	医学研究入門Ⅱ	基礎研究医養成プログラム	伝田 香里	研究入門・まとめ 研究ガイドラインについて
M 2	Zone C	薬理学 アトピー疾患研究センター	櫻井 隆 多田 昇弘	生理・薬理実習オリエンテーション 動物実験と遺伝子組換え実験
M 2	Zone D	微生物学 微生物学 微生物学	飯田 真理 講座内全員 講座内全員	微生物-12：消毒と滅菌と微生物検査 微生物学実習1：病原微生物取り扱いの基本手技 微生物学実習2：常在菌、病原菌の検出と同定。滅菌と消毒
M 2	Unit 1	解剖学・生体構造科学	市村 浩一郎	解剖 1：解剖実習序論
M 2	医療体験実習	医学教育研究室	全教員	オリエンテーション①② 附属病院実習後カリキュラム
M 2	医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム	病院管理学	川崎 志保理	医療安全から見た医療者のプロフェッショナリズム
M 2	OSCE運営補助	医学教育研究室	全教員	OSCE運営補助オリエンテーション—1 OSCE運営補助オリエンテーション—2 OSCE運営補助 Post Clinical Clerkship OSCE運営補助
M 3	Zone E	衛生学・公衆衛生学 革新的医療技術開発研究センター 医学教育研究室/衛生学・公衆衛生学 医学教育研究室/衛生学・公衆衛生学	伊藤 弘明 野尻 宗子 澤井 直/谷川 武 澤井 直/谷川 武	疫学-2 疫学方法論 疫学-17 治験 社会医学序論-9 医療倫理 その1 医療倫理の歴史的展開と、その社会的背景 社会医学序論-11 医療倫理 その2 医療倫理の原則と事例(ケース)
M 3	Zone F	病理・腫瘍学講座 小児科学 人体病理病態学 人体病理病態学 消化器内科学 法医学 放射線治療学 衛生学 衛生学 衛生学 法医学 臨床薬理学 人体病理病態学	小林 敏之 恒松 由記子 松本 俊治 松本 俊治 芹澤 信子 齋藤 一之 鹿間 直人 篠原 厚子 松川 岳久 横山 和仁 齋藤 一之 佐瀬 一洋 松本俊治 福村由紀 他 全教員	遺伝子異常と疾患-1 遺伝子異常と疾患-2 遺伝子異常と疾患-3 遺伝子異常と疾患-4 臨床薬理学-2:「消化器悪性腫瘍に対する化学療法の進歩」 中毒-3:「法中毒学(1)」 中毒-5:「放射線とその影響」 中毒-6:「化学物質と社会-2」 中毒-7:「化学物質と社会-4」 中毒-8:「化学物質と社会-3」 中毒-9:「法中毒学(2)」 臨床薬理学-3: 医薬品開発と規制科学、臨床試験の倫理性 病理学総論実習6: 外科病理総論
M 3	医療体験実習	医学教育研究室	全教員	オリエンテーション①② 附属病院実習後カリキュラム
M 3	Group 2	麻酔科学・ペインクリニック	林田 眞和	麻酔・ペイン01:麻酔総論
M 3	Group 4(旧Group 5)	医学教育研究室	鈴木 勉	医療面接01:医療面接の進め方
M 3		精神医学	黄田 常嘉	精神-03:司法精神医学・パーソナリティ障害
M 4	Group 8	放射線治療学 総合診療科	直居 豊 福井 由希子	放射-01:放射線障害・防護 総合診04 感染症4:感染症の疫学と流行
M 4	行動科学Ⅱ・社会医学	公衆衛生学講座 衛生学・公衆衛生学 法医学講座	遠藤 源樹 全教員 全教員	公衆衛生学-11 精神保健 衛生・公衆衛生実習 法医学実習
M 4	臨床実習前トレーニング	病院管理学 病院管理学 血液内科学 医学教育/呼吸器内科学 臨床遺伝学/革新的医療技術開発研究センター	山本 宗孝 岩井 完 浜埜 康晴 鈴木 勉 新井 正美/後藤 景子	医師としてのマナー・接遇・医療事故 リスクマネジメント インフォームドコンセント 患者安全目標(JCI) 遺伝医療総論/臨床遺伝学概論
M 4	M4臨床コア実習	臨床実習を担当する教員等が院内各所で医の原則・医学と医療の倫理等に係る指導を適宜おこなう		
M 5	M5臨床コア実習			
M 5	M5臨床実習			
M 6	M6臨床実習			
M 6	学生インターンシップ実習(選択コース)			
M 6	必修講義	臨床医学系・社会医学系の教員が医の原則・医学と医療の倫理等に係る内容を適宜講義する		

## － 各学年の進級判定基準 －

### 1. 進級ならびに卒業判定の基本

進級ならびに卒業判定は、各学年における総合試験・個別試験・再試験の結果、体験実習・実験実習・臨床実習・共用試験（OSCE, CBT）など（以下「試験等」という）の評価、GPA、医学生としての態度・モチベーション、健康状況等を総合的に評価して、進級（卒業）判定会議・教授会等において審議し、学長が決定する。

### 2. 各学年における試験等

#### 1 年次

- 1) 一般教育： 前期・後期の各授業において指定された試験
- 2) 基礎医学入門： 定期試験： 組織細胞生物学定期試験  
定期試験再試験： 組織細胞生物学定期試験再試験

#### 2 年次

- 1) 総合試験： ZoneA 組織学試験、ZoneA 神経解剖学試験、ZoneA 脳解剖実習試験、ZoneB 総合試験（生化学）、ZoneB 総合試験（発生）、ZoneC 総合試験、ZoneD 総合試験、Unit1 総合試験  
実験実習： 組織学実習、脳解剖学実習、生化学・分子生物学実習、生理・薬理学実習、微生物学実習、免疫学実習、寄生虫病学実習、人体解剖実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneA 組織学再試験、ZoneA 神経解剖学再試験、ZoneB 総合試験再試験（生化学）、ZoneB 総合試験再試験（発生）、ZoneC 総合試験再試験、ZoneD 総合試験再試験、Unit1 総合試験再試験
- 3) 個別試験： Zone・Unit でおこなわれる総合試験・総合試験再試験以外の試験
- 4) 体験実習等評価： 医学研究 I、基本手技、医療体験実習、医療安全から見た医療者のプロフェッショナルリズム、救急医学実習、OSCE 運営補助
- 5) English 中間試験、最終試験

## 3年次

- 1) 総合試験： ZoneE 総合試験、ZoneF 総合試験、Group1 総合試験、Group2 総合試験、Group3 総合試験、Group4 総合試験、Group5 総合試験、Group6 総合試験  
実験実習： 疫学・統計学演習、病理学総論実習、救急医学実習
- 2) 総合試験再試験： ZoneE 総合試験再試験、ZoneF 総合試験再試験、Group1 総合試験再試験、Group2 総合試験再試験、Group3 総合試験再試験、Group4 総合試験再試験、Group5 総合試験再試験、Group6 総合試験再試験
- 3) 基礎ゼミナール
- 4) 体験実習等評価： 基本手技、診察技法、医療面接、医療体験実習
- 5) English

## 4年次

- 1) 総合試験： Group7 総合試験、Group8 総合試験、Group9 総合試験、行動科学Ⅱ・社会医学総合試験、臨床実習前トレーニング試験、M4 臨床コア実習試験
- 2) 総合試験再試験： Group7 総合試験再試験、Group8 総合試験再試験、Group9 総合試験再試験、行動科学Ⅱ・社会医学総合試験再試験、臨床実習前トレーニング試験再試験、M4 臨床コア実習試験再試験
- 3) 臨床実習等評価： 臨床実習前トレーニング、M4 臨床コア実習
- 4) 共用試験： C B T、O S C E
- 5) 共用試験再試験： C B T再試験、O S C E再試験
- 6) English

## 5年次

- 1) 総合試験： M5 臨床実習前期（コア科）試験、B S L 総合試験
- 2) 総合試験再試験： M5 臨床実習前期（コア科）試験再試験、B S L 総合試験再試験
- 3) 臨床実習評価： M5 臨床コア実習、M5 臨床実習

## ※評価方法

- 1) 2022年度2年次～5年次のカリキュラムに関する合否判定・評点については、出席状況、プレテスト・ポストテスト、レポート・スケッチ等の成績、実習の成績、勉学態度等も加味し総合的に判定を行う。

判定	評価	評点	G P	備考
合格	S	100点～90点	4	-
	A	89点～80点	3	
	B	79点～70点	2	
	C	69点～60点	1	
再試験合格	C	60点	1	
不合格	D	59点～0点	0	
失格	失格 (G)	/	-	授業数の3分の1を超える欠席の場合 試験を放棄した場合（未受験および受験資格なし）

※失格（G）（「/」）はGPA算出の対象外となる。

## 【GPA算出計算式】

$$\text{GPA} = \frac{\begin{array}{c} \text{Sの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 4 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 3 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 2 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 1 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Dの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 0 \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

## 6年次

- 1) 総合試験： 臨床実習後期試験
- 2) 卒業試験： 総合試験、卒業試験 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8、Post Clinical Clerkship OSCE
- 3) 補助試験・再試験： 臨床実習後期試験再試験、総合試験再試験、卒業補助試験 A. B. C. D、Post Clinical Clerkship OSCE 再試験
- 4) 臨床実習評価： M6 臨床実習、学生インターンシップ実習（選択コース）

なお、教務委員会で指定された他の試験等を追加し、卒業・進級判定の参考とすることができる。

### 3. 受験資格

- 1) 受験資格は、規定する授業時間の3分の2以上を出席した者に与える。なお、他の受験資格については、教務委員会の申し合わせに従い、別途考慮する。
- 2) 体験実習及び実験実習については、当該授業のすべてに出席することを原則とする。
- 3) 特別な理由なく個別試験・総合試験・総合試験再試験・総合補助試験・定期試験・定期試験再試験、共用試験・共用試験再試験、実習評価の試験等を欠席した場合には、再度、試験は実施せず、「0点」とする。取り扱いは、進級判定会議において審議する。

### 4. 試験判定

#### 1年次

- 1) 一般教育カリキュラムは、前期・後期の各科目責任者が評価し、一般教育協議会にて審議する。
- 2) 基礎医学入門定期試験は科目責任者が評価し、教務委員会にて審議する。  
定期試験に不合格となった者には再試験を課す。判定は教務委員会で審議する。

#### 2～5年次

- 1) 総合試験は、Zone・Unit・Group・臨床コア実習・臨床実習担当オーガナイザーが評価し、教務委員会にて審議する。  
総合試験に不合格となった者には総合試験再試験を課す。総合試験再試験の判定は教務委員会で審議する。
- 2) 個別試験は、授業責任者が評価し、教務委員会に報告する。個別試験の再試験は実施しない。
- 3) 共用試験C B T、共用試験C B T再試験は、全国医学部長・病院長会議で提案された基準で判定する。  
共用試験O S C E、共用試験O S C E再試験は、全国平均成績と学内成績等を基に基準を定め、オーガナイザーが評価し、教務委員会にて審議する。

#### 6年次

- 1) 総合試験は、担当教務委員が評価し、教務委員会にて審議する。
- 2) 卒業試験は、「医学部卒業試験に関する基準」に準拠する。

### 5. 試験中の不正行為に対する処置について

- ① 試験中試験監督者が、学生の不正行為を発見して、その事実を確認したときは、その学生を試験場外に退出させる。
- ② 試験で不正行為を行った学生に対しては、理由の如何を問わず、学則第63条および第64条に則り、停学の懲戒処分とする。
  - i. 停学期間は1か月とする。
  - ii. 直接的に不正行為を行っていないなくとも、不正行為に加担した場合にも原則として停学の処分を科す。
  - iii. 当該授業科目の成績を0点とする。
- ③ 試験終了後においても、当該科目担当者が不正行為があったと判断し、その事実を確認したときは、同様の処置を検討する。